

特集 2013年度開設博物館情報 (開設博物館一覧表：126館掲載)

特集 2013年度リニューアル博物館情報 (リニューアル博物館一覧表：170館掲載)

特集：2013年度開設博物館情報

丹青研究所調べによる、2013年度(2013年4月～2014年3月)に開設した全国の博物館数は126館です。ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2013年度の開設博物館について傾向を示し、都道府県別の開設博物館リストを掲載します。

■ 2013年度開設博物館の傾向

2013年度の開設博物館数は、2011年度、2012年度と同様に、120館台を記録しました。近年の開設数と比べて、大きな変動は見られなかったと解しています。

この値には、設置場所(敷地)を換えて新たな施設を整備した「移転新築施設」や、建物の老朽化や機能の見直し・拡張などを理由に、旧施設を取り壊して新たに建設した「取り壊し新築施設」が含まれています。また、既存施設(以前は博物館以外の施設として機能)のリノベーションにより新たな施設として誕生したものや、寄贈・移管・売却により、設置・運営主体を替え、新たな施設となったものも含まれています。

なお、本調査では、博物館に類する施設として、常設の展示空間を有して、資料を展示したり、普及啓発活動などを行っている施設も対象に含めています。

2013年度開設博物館には、ひがし大雪自然館(北海道)、秋田県立美術館、アーツ前橋(群馬県)、郵政博物館(東京都)、国立近現代建築資料館(東京都)、岡田美術館(神

奈川県)、東芝未来科学館(神奈川県)、 دونالد・キーン・センター柏崎(新潟県)、サイエンスヒルズこまつ ひとものづくり科学館(石川県)、市立岡谷美術考古館(長野県)、あべのハルカス美術館(大阪府)、生駒ふるさとミュージアム(奈良県)、人と科学の未来館サイピア(岡山県)、佐賀大学美術館(佐賀県)、諫早市美術・歴史館(長崎県)などが見られました(後掲の「2013年度開設博物館一覧表」をご参照ください)。

代表的な施設を一覧すると、前述した移転新築施設や既存施設のリノベーションによって誕生した施設、従来の機能を拡張して新たに誕生した施設が見られます。2013年度開設博物館を概観すると、このような傾向が顕著であることがわかります。

詳細は後述しますが、学校、公民館、役所、研修センター、空きビル、空き店舗、さらには閉館となった博物館や美術館を活用・転用したケースは今回も各地で確認することができました。かつては、別の博物館・美術館の建物であったケースが次第に増えています。また、博物館・美術館単独の施設として設置されたケースより、他の施設との複合・併設によって設置されたケースの方が多く見られます。「既存施設の活用・転用」「他施設との複合・併設」は、近年の開設パターンとして定着しています。

また、郷土資料館、歴史民俗資料館といった地域の歴史や文化を広く扱う施設に比べて、特定のテーマを設定

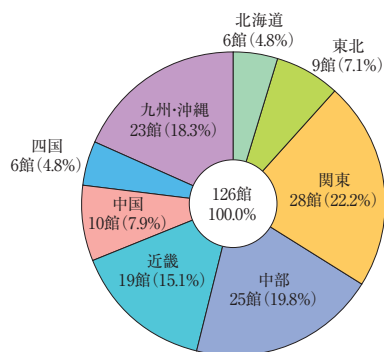
した施設が多く開館しています。歴史遺産や自然公園などに関するガイダンス施設や、集客施設・観光施設内に設置された施設も各地で見られました。

■地方別に見た開設傾向

合計126館を開設数の多い地方順に見ると、関東(28館／茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川)、中部(25館／新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知)、九州・沖縄(23館／福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)、近畿(19館／三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)、中国(10館／鳥取、島根、岡山、広島、山口)、東北(9館／青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)、北海道(6館)、四国(6館／徳島、香川、愛媛、高知)となります。近年の結果と比較すると、九州・沖縄の開設数の伸びが顕著でした。例年に比べ、中国の開設数も多かったと捉えています。人口の多い都市部や、多くの人が訪れる観光地でより多くの開設状況を確認することができました。

都道府県別では、13館の東京を筆頭に、新潟県、福岡県が各7館、北海道、長野県が各6館、群馬県、京都府、兵庫県が各5館、大阪府、大分県、沖縄県が各4館、神奈川県、奈良県、山口県、鹿児島県が各3館となっています。一方、福島県、三重県、熊本県では、新たに開設された博物館を確認することができませんでした。

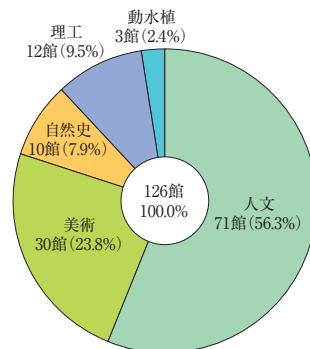
＜図－１＞ 地方別開設博物館数の比率



■館種別に見た開設傾向

これまでに行った年度別開設博物館に関する調査結果(結果は、全て本誌バックナンバーにおいて掲載)と同様、歴史博物館や考古博物館、郷土資料館、文学館、総合博物館などを含む「人文」系施設が最も多く、全体の半数以上を占めています。美術館や画家の記念館などを含む「美術」系施設も全体の4分の1近くを示しており、「人文」「美術」系施設で、全体の約8割に達しています。今回の調査では、「動水植」系施設を除く全ての館種で10館以上の開設を確認しました。

＜図－２＞ 館種別開設博物館数の比率



■設立主体別に見た開設傾向

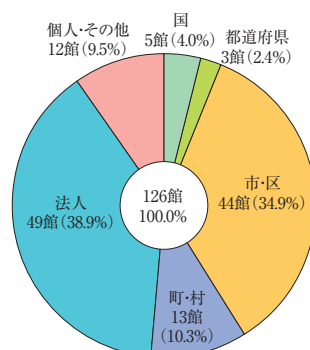
「法人」による施設が最も多く、全体の約4割を数えました。「市・区」による施設も多く見られ、全体の3分の1以上を占めています。「法人」「市・区」の施設で全体の7割以上に達しています。「都道府県」「市・区」「町・村」を合わせた公立の施設は、全体の47.6%を占めています。

「法人」の内訳に目を転じると、株式会社(23館)、財団法人(9館：公益財団法人7、一般財団法人2)、社団法人(6館：公益社団法人1、一般社団法人5)、学校法人(5館)、宗教法人(2館)、NPO法人(2館)、有限会社(1館)、社会福祉法人(1館)で構成されています。前回に比べ、「社団法人」による施設の開設数が増え、「宗教法人」「NPO法人」による施設の開設数が少なくなっています。

前回報告同様、「法人」で最も目立つのは企業による施設です。この期間には、株式会社千葉銀行、株式会社京王電鉄、オリパス株式会社、株式会社ユニバーサルエンターテインメント、株式会社東芝、株式会社ブルボン、京セラ株式会社、近畿日本鉄道株式会社、株式会社宗家源吉兆庵、株式会社イズミ、カンロ株式会社、株式会社ふくやなどの施設が新たに開設しました。

「国」による施設には、文化庁、環境省、国立大学法人の施設が、「その他」には、有志団体による施設や、長岡市、小千谷市、公益社団法人中越防災安全推進機構による「中越メモリアル回廊推進協議会」が設立した施設、国と町、町とNPO法人による共同設立の施設が含まれています。

＜図－３＞ 設立主体別開設博物館数の比率



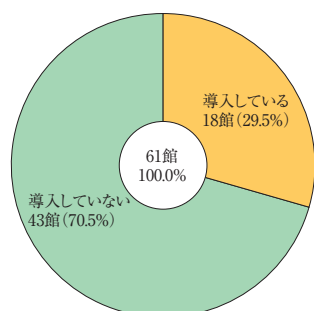
■指定管理者について

2003年9月に施行された地方自治法の改正を受けて導入された「公立施設における指定管理者制度」について調査した結果、2013年度開設博物館（公立）の3割弱の施設で同制度を導入していることがわかりました。前回報告より導入状況が少し減っている結果となりました（32.1%→29.5%）。なお、「導入していない」施設のうち、1館は「指定管理者制度の導入を検討中」と回答しています。

指定管理者には、公益財団法人、株式会社（共同企業体を含む）をはじめ、公益社団法人、NPO法人、組合、地元の委員会や協議会などが見られます。また、「一般財団法人・株式会社」「学校法人・株式会社・有限会社」「公益財団法人・一般社団法人」のように、異なる法人格を持つ複数の事業者による共同事業体が指定管理者となっているケースも見られます。なお、今回の調査では「指定管理者制度を導入している」と回答した施設のほとんどが「施設の全業務に指定管理者制度を導入」と回答しています。指定管理者制度が始まって10年が経過した2013年度ですが、同制度を導入する施設の見極めが進んでいることが、こうした業務範囲の傾向（導入する業務範囲の拡張）に影響を及ぼしているのではないかと推察しています。

施設の運営については、運営委託を行っているケースや共同運営を行っているケースなど、調査を行うたびに運営方法が多様化しています。

<図-4> 指定管理者制度の導入状況



■施設の形態について

博物館を単独の建物として設置しているか、それとも建物内に博物館を複合・併設する形態で設置しているかについて調査した結果、「単独の建物である」館は全体の半数弱となりました。一方、「他施設との複合・併設である」館の比率は、前回や前々回調査の結果を上回り（40.9%→44.5%→54.0%）、「複合・併設」型の施設整備がますます増えていることを示しています。

「複合・併設」の形態（回答：複数選択あり）に目を転じると、「他の博物館との複合・併設」が4館（資料館と人形館の組み合わせなど）、「博物館以外の社会教育施設・

文化施設との複合・併設」が10館（図書館、公民館、文化会館、ホール、交流館、生涯学習センター、ギャラリーなどとの組み合わせ）、「学校との複合・併設」が9館（大学の校舎内に設置など）、「企業、官公庁との複合・併設」が22館（企業博物館以外は、庁舎、支所、事務所、ビジネス創造プラザ、オフィスビルなどとの組み合わせ）、「商工施設との複合・併設」が12館（複合商業施設、ショッピングセンター、工場、本店などとの組み合わせ）、「観光施設との複合・併設」が7館（物産館、ホテル、観光案内所、複合レジャー施設などとの組み合わせ）、「住宅との複合・併設」が5館（旧邸、生家などとの組み合わせ）、「その他の施設との複合・併設」が13館（公園管理事務所、診療所、青果センター、駐輪場、太陽光発電所、土地改良区倉庫などとの組み合わせ）であることがわかります。

近年の新設館ではこうした複合・併設形態のバリエーションは、ますます多様化しています。今回の開設博物館には複合商業施設内に設けられた施設が複数含まれています。各地で交流拠点や観光拠点となる大規模な複合施設が整備されていますが、博物館が一つの構成要素となることで、訪れる人々の日常（生活）に関わっていきると望ましいと考えます。

複合・併設する施設によって利用する人や集う人は異なってくると思いますが、こうした異なる施設や機能との組み合わせによって、博物館の特性や魅力を発揮できる展開（博物館に関心のない人を引き込む仕掛けづくりなど）が図れると望ましいと考えます。

博物館の設置にあたって、既存の建物や歴史的建造物を活用・転用して行っているかについて調査した結果、全体の約6割がこうした建物を活用・転用して博物館を設置していることがわかりました。新たに施設を建設したのは全体の4割強でした。調査のたびに少しずつ「活用・転用」型の施設整備の比率が高くなっています（54.7%→55.5%→57.1%）。

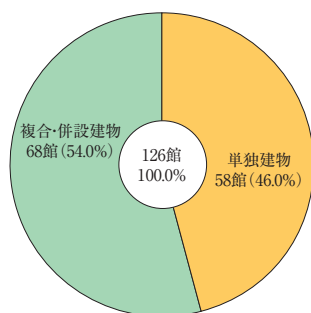
「活用・転用」の形態（回答）に目を転じると、「既存の建物」として、庁舎（支所や役所の一部を含む）、（旧）校舎（廃校となった小学校・中学校の校舎や体育館）、大学の建物（校舎、資料館など）、企業の建物（旧本社ビル、保養所、研修センターなど）、（旧）児童会館、公民館、村民会館、ショッピングセンター、商業ビル、空き店舗、オフィス、工場、倉庫、民家、（旧）学校給食センター、（旧）市共同調理場、（旧）母子健康センター、（旧）障害者支援施設、競輪場、（旧）日帰り温泉施設などとともに、（旧）博物館・美術館・資料館が挙げられています。この中には、佐々木榮松記念 釧路湿原美術館（旧北緯43°美術館）、藤城清治美術館 那須高原（旧ニキ美術館）、崔如琢美術館（旧HAO伊豆高原美術館）なども含まれています。

「歴史的建造物」は、ハリス理化学館(国指定重要文化財)、旧工場事務所棟(市指定文化財)、伝建地区の商家、門司港レトロ地区の建物、明治期の土蔵や母屋、洋画家の住居・アトリエ、創業者の旧邸、登録有形文化財(生家、役場庁舎、銀行)や産業遺産の建物などが挙げられています。

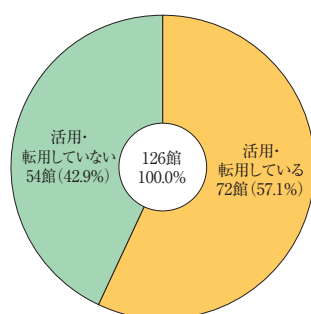
既存の建物や歴史的建造物の活用・転用傾向は、近年の施設整備において既に定着しています。新たに開設した施設を見ると、施設や空間の再利用・有効利用だけを目的にするのではなく、旧施設の特色や長所を活かしたりノベーションの好例をいくつか確認することができます。

少子化による人口減や市街地における空き店舗の増加などの傾向は地方を中心にますます深刻化しています。地域の観光や交流の核となる施設づくりに向けて、高い魅力や価値を有している歴史的建造物や、利用しやすい好立地にあり十分な空間や設備を有している既存の建物を上手に再生させる取り組みに今後も注目していきたいと思います。

<図-5> 施設の形態(単独／複合・併設)



<図-6> 施設の形態(既存施設や歴史的建造物の活用・転用)



■施設規模について

有効データ数：95館 2013年度開設博物館の延床面積を集計した結果、最大値は7,714㎡、最小値は40㎡、平均値は867㎡、中央値は480㎡でした。最大値、平均値は前回報告の値を下回っていますが、中央値は同じ値でした。施設の中・小規模化の傾向は続いています。

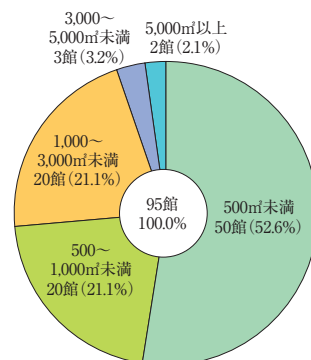
規模(延床面積)別開設博物館数の比率を示したグラフを見ると、1,000㎡未満の施設の占める割合が73.7%を数え、全体の4分の3程度の施設がこの区分に属していることがわ

かります。前回報告と比べると、3,000㎡未満の施設の比率が高くなっていることが特徴的でした(89.6%→94.8%)。

館種別の延床面積を見ると、「美術」「理工」が平均値、中央値ともに全体の数値を上回っています。一方、「人文」「自然史」は平均値、中央値が全体の数値を下回っています。

設立主体別の延床面積を見ると、「都道府県」「市・区」「法人」が平均値、中央値ともに全体の数値を上回っています。

<図-7> 規模(延床面積)別開設博物館数の比率

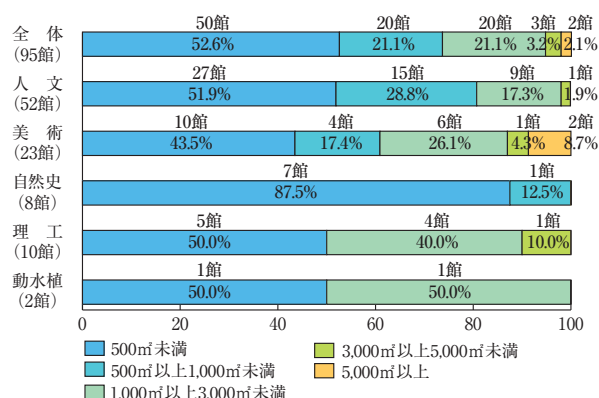


<表-1> 館種別の延床面積(最大値、最小値、平均値、中央値)

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (95 館)	7,714	40	867	480
人 文 (52 館)	3,292	40	618	431
美 術 (23 館)	7,714	66	1,402	560
自然史 (8 館)	970	140	308	197
理 工 (10 館)	4,720	94	1,418	838
動水植 (2 館)	1,163	137	650	650

※() 内は有効データ館数 ※単位は㎡

<図-8> 館種で見る規模(延床面積)別開設博物館数の比率



<表-2> 設立主体別の延床面積(最大値、最小値、平均値、中央値)

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (95 館)	7,714	40	867	480
国 (5 館)	1,712	129	689	302
都道府県 (3 館)	3,747	489	1,873	1,383
市・区 (35 館)	5,517	139	936	550
町・村 (7 館)	2,597	94	550	207
法人 (36 館)	7,714	43	916	515
個人・その他 (9 館)	1,007	40	407	177

※() 内は有効データ館数 ※単位は㎡

■総工事費について

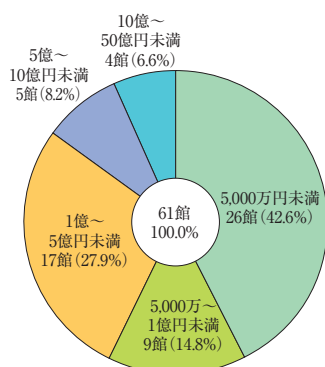
有効データ数：61館 総工事費を集計した結果、最大値は1,705,000千円、最小値は300千円、平均値は240,602千円、中央値は73,534千円でした。最大値、最小値、平均値、中央値の全てが前回報告の値を下回っています。このデータからも中・小規模(総工事費)化の傾向がますます進行していることがわかります。これまでにを行った年度別開設博物館に関する調査結果を2006年度以降で辿ると、平均値は1,394,477千円→960,647千円→576,999千円→517,675千円→240,602千円、中央値は200,000千円→194,572千円→150,000千円→149,431千円→73,534千円と大きく減少しています。

総工事費別開設博物館数の比率を示したグラフを見ると、「5,000万円未満」の施設の占める割合が全体の4割以上と、最も多いことがわかります。前回報告では最も多かった「1億～5億円未満」の施設の占める割合は全体の3割未満に下がりました。前回報告より比率が高くなったのは「5,000万円未満」の施設だけでした。

館種別の総工事費を見ると、サンプル数の少ない「理工」だけが平均値、中央値ともに全体の数値を上回っています。一方、「人文」は平均値、中央値ともに全体の数値を下回っています。

設立主体別の総工事費を見ると、サンプル数の少ない「国」「都道府県」だけが平均値、中央値ともに全体の数値を上回っています。一方、「市・区」の平均値、中央値は前回報告の値を下回りました。

<図-9> 総工事費別開設博物館数の比率

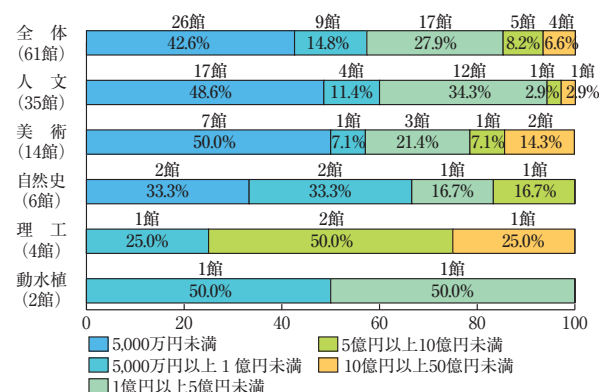


<表-3> 館種別の総工事費 (最大値、最小値、平均値、中央値)

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (61館)	1,705,000	300	240,602	73,534
人 文 (35館)	1,250,000	300	154,305	59,955
美 術 (14館)	1,705,000	3,400	328,475	64,775
自然史 (6館)	533,000	21,263	206,704	80,767
理 工 (4館)	1,529,000	80,000	802,250	800,000
動水植 (2館)	178,182	50,000	114,091	114,091

※() 内は有効データ館数 ※単位は千円

<図-10> 館種で見る総工事費別開設博物館数の比率



<表-4> 設立主体別の総工事費 (最大値、最小値、平均値、中央値)

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (61館)	1,705,000	300	240,602	73,534
国 (3館)	600,000	398,050	510,350	533,000
都道府県 (2館)	1,705,000	700,000	1,202,500	1,202,500
市・区 (30館)	1,487,410	3,500	191,961	66,359
町・村 (9館)	1,529,000	11,750	217,640	47,100
法人 (11館)	900,000	1,700	216,373	120,000
個人・その他 (6館)	487,931	300	107,166	25,632

※() 内は有効データ館数 ※単位は千円

■2013年度開設博物館の運営状況について

ここでは、職員の配置状況(総職員数、研究・学芸系職員数、事務・管理系職員数、常勤職員数、非常勤職員数)について集計した結果を報告します。

総職員数の比率を見ると、5人以下の施設が全体の58.8%を占めています。また、7人以下の施設は全体の80.4%に達します。一方、10人以上の職員を有する施設は全体の5分の1以下(19.7%)を示しています。総職員数の最大値は35人、最小値は1人、平均値は6.6人、中央値は5人でした。

研究・学芸系職員数の比率を見ると、1人もしくは2人の施設が全体の4分の1以上(25.5%)を占めています。また、研究・学芸系職員を配置していない施設は全体の3分の1以上(37.3%)を示しています。一方、10人以上の研究・学芸系職員を有する施設は1館に過ぎませんでした。研究・学芸系職員数の最大値は13人、最小値は0人、平均値は2.4人、中央値は2人でした。

事務・管理系職員数の比率を見ると、1人、2人、3人の施設が全体の5割以上(56.8%)を占めています。事務・管理系職員を配置していない施設は全体の7.8%でした。ともに前回調査の比率を上回っています。一方、10人以上の事務・管理系職員を有する施設は全体の7.9%を示しています。事務・管理系職員数の最大値は30人、最小値は0人、平均値は4.2人、中央値は3人でした。平均値、中央値ともに研究・学芸系職員の値を上回っています。

常勤職員数の比率を見ると、1人もしくは2人の施設が全体の4分の1(23.5%)を占めています。常勤職員を配置していない施設の比率は全体の27.5%でした。一方、

10人以上の常勤職員を有する施設は僅か2館に過ぎませんでした。常勤職員数の最大値は35人、最小値は0人、平均値は3.1人、中央値は2人でした。

非常勤職員数(嘱託、臨時職員を含む)の比率を見ると、1人、2人、3人の施設が全体の49.1%を占めています。非常勤職員を配置していない施設は全体の11.8%でした。一方、10人以上の非常勤職員を有する施設は僅か1館に過ぎませんでした。非常勤職員数の最大値は20人、最小値は0人、平均値は3.5人、中央値は3人でした。

<表-5> 総職員数の比率

総職員数	回答館	構成比
1人	4館	7.8%
2～3人	13館	25.5%
4～5人	13館	25.5%
6～7人	11館	21.6%
8～9人	0館	0.0%
10～15人	6館	11.8%
16～20人	1館	2.0%
21人以上	3館	5.9%
全 体	51館	100.0%

<表-6> 研究・学芸系職員数の比率

研究・学芸系職員数	回答館	構成比
0人	19館	37.3%
1人	5館	9.8%
2人	8館	15.7%
3人	6館	11.8%
4人	4館	7.8%
5～9人	8館	15.7%
10～20人	1館	2.0%
21人以上	0館	0.0%
全 体	51館	100.0%

<表-7> 事務・管理系職員数の比率

事務・管理系職員数	回答館	構成比
0人	4館	7.8%
1人	7館	13.7%
2人	10館	19.6%
3人	12館	23.5%
4人	3館	5.9%
5～9人	11館	21.6%
10～20人	3館	5.9%
21人以上	1館	2.0%
全 体	51館	100.0%

<表-8> 常勤職員数の比率

常勤職員数	回答館	構成比
0人	14館	27.5%
1人	8館	15.7%
2人	4館	7.8%
3人	11館	21.6%
4人	5館	9.8%
5～9人	7館	13.7%
10～20人	1館	2.0%
21人以上	1館	2.0%
全 体	51館	100.0%

<表-9> 非常勤職員数の比率

非常勤職員数	回答館	構成比
0人	6館	11.8%
1人	8館	15.7%
2人	11館	21.6%
3人	6館	11.8%
4人	4館	7.8%
5～9人	15館	29.4%
10～20人	1館	2.0%
21人以上	0館	0.0%
全 体	51館	100.0%

2013年度開設博物館一覧表

丹青研究所調べによる2013年度(2013年4月～2014年3月)の主な開設博物館リストです。この中には、旧施設を発展的に解消して移転新築、取り壊し新築した館も含まれています。

館 園 名	開設年月	所 在 地
網走市立郷土博物館分館 「モヨロ貝塚館」	2013.05	北海道網走市北1条東2
小林英一記念美術館	2013.04	北海道芦別市西芦別町11-25 旧西芦別小学校体育館
佐々木榮松記念 釧路温泉美術館	2013.06	北海道釧路市阿寒町上阿寒23-38
書の北溟記念室 ～中野北溟作品展示室	2013.10	北海道苫前郡羽幌町南6条2 中央公民館内
ひがし大雪自然館(ぬかびら源泉 郷ビジターセンター・上士幌町 ひがし大雪博物資料館)	2013.05	北海道河東郡上士幌町 ぬかびら源泉郷48-2
室蘭市港の文学館	2013.11	北海道室蘭市海岸町1-1-9
青森まちかど歴史の庵「奏海」	2013.08	青森県青森市本町2-1-10
関野準一郎記念 まるめろ美術館	2013.10	青森県むつ市十二林17-1
釜石市橋野鉄鉱山 インフォメーションセンター	2013.11	岩手県釜石市橋野町2-6
骨寺村荘園交流館展示棟	2013.04	岩手県一関市厳美町若神子241-2

秋保の杜 佐々木美術館&人形館	2013.06	宮城県仙台市太白区秋保町境野中原 128-9
エール蔵王 島川記念館	2013.07	宮城県刈田郡蔵王町 遠刈田温泉西集団95-1
秋田県立美術館	2013.09	秋田県秋田市中通1-4-2
地蔵田遺跡出土品展示施設	2013.04	秋田県秋田市御所野地蔵田3-1 御所野総合公園管理事務所内
金山町街角交流施設 「マルコの蔵」	2013.07	山形県最上郡金山町金山363
石の百年館	2014.03	茨城県笠間市稲田2307
SLキューロク館	2013.04	栃木県真岡市台町2474-6
藤城清治美術館 那須高原	2013.06	栃木県那須郡那須町湯本203
アーツ前橋	2013.10	群馬県前橋市千代田町5-1-16
足尾鉬毒事件田中正造記念館	2013.11	群馬県館林市大手町6-50
桐生市近代化遺産 絹燃記念館	2013.04	群馬県桐生市巴町2-1832-13
渋川市指定史跡 「ハワイ王国公使別邸」 ガイダンス施設	2013.05	群馬県渋川市伊香保町伊香保32
渋川市埋蔵文化財センター	2013.07	群馬県渋川市北橋町真壁2372-1 渋川市北橋総合支所2階 (渋川市文化財保護課 東側)
入間東部地区消防組合 防災館	2013.08	埼玉県ふじみ野市大井中央1-1-19
本多静六記念館	2013.04	埼玉県久喜市菖蒲町新堀38 菖蒲総合支所5階

大多喜町天然ガス記念館	2013.04	千葉県夷隅郡大多喜町大多喜259-1	菊川市埋蔵文化財センター どきどき	2014.02	静岡県菊川市下平川618-1
ちばぎん金融資料室	2013.04	千葉県千葉市中央区富士見2-3-1 塚本大千葉ビル2階	崔如琢美術館	2013.11	静岡県伊東市富戸1101-10
伊東昭義美術館	2013.11	東京都目黒区目黒3-11-3	豊橋市文化財センター	2013.05	愛知県豊橋市松葉町3-1
オリンパス技術歴史館 「瑞古洞」	2013.10	東京都八王子市石川町2951 オリンパス株式会社技術開発センター-石川内	南山大学人類学博物館	2013.10	愛知県名古屋市中昭和区山里町18 南山大学名古屋キャンパスR棟
榎尾雄雄発明記念館	2013.06	東京都世田谷区成城4-19-10	滋賀医科大学 メディカルミュージアム	2013.06	滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学
葛飾区科学教育センター 「未来わくわく館」	2013.04	東京都葛飾区新宿6-3-2	稲盛ライブラリー	2013.07	京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町9 京セラ本社ビル南隣り
歌舞伎座ギャラリー (Kabukiza Gallery)	2013.04	東京都中央区銀座4-12-15 歌舞伎座タワー 5階	京の食文化ミュージアム・ あじわい館	2013.04	京都府京都市下京区中堂寺南町130 京都青果センタービル3階
ギャラクシティ (足立区こども未来創造館)	2013.04	東京都足立区栗原1-3-1	聖母女学院記念室	2013.12	京都府京都市伏見区深草田谷町1
京王レーランド	2013.10	東京都日野市程久保3-36-39	ハリス理化学館 同志社ギャラリー	2013.11	京都府京都市上京区今出川通烏丸東入 同志社大学今出川キャンパス
国立近現代建築資料館	2013.05	東京都文京区湯島4-6-15	松下資料館	2013.12	京都府京都市南区西九条北ノ内町11 PHPビル3階
城西大学水田記念博物館 大石化石ギャラリー	2013.04	東京都千代田区平河町2-3-20 学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス 3号棟地下1階	あべのハルカス美術館	2014.03	大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス16階
東京理科大学 数学生験館	2013.10	東京都新宿区神楽坂1-3 東京理科大学神楽坂キャンパス 近代科学資料館地下1階	SANZEN-HIROBA	2014.03	大阪府枚方市楠葉花園町15-1 KUZUHA MALL 南館 ヒカリノモール1F
日本そろばん資料館	2013.07	東京都台東区下谷2-17-4 公益社団法人全国珠算教育連盟 東京事務局内	武田科学振興財団杏雨書屋	2013.10	大阪府大阪市中央区道修町2-3-6
日野市立小島善太郎記念館 「百草画荘」	2013.05	東京都日野市百草776	Bs SQUARE	2014.03	大阪府大阪市西区千代崎3-中2-1 京セラドーム大阪2F
郵政博物館	2014.03	東京都墨田区押上1-1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ9F	砂防の父 赤木正雄展示館	2013.09	兵庫県豊岡市引野972
岡田美術館	2013.10	神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1	白髪一雄記念室	2013.11	兵庫県尼崎市昭和通2-7-16 尼崎市総合文化センター 4階
東海道かわさき宿交流館	2013.10	神奈川県川崎市川崎区本町1-8-4	スペース11 ダルビッシュミュージアム	2013.11	兵庫県神戸市中央区山本通1-7-16 ダルビッシュ コート3階
東芝未来科学館	2014.01	神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 スマートコミュニティセンター (ラゾーナ川崎東ビル)2F	姫路みなとミュージアム	2013.04	兵庫県姫路市飾磨区須加294 姫路ポートセンター 2階
阿賀町郷土資料館	2013.06	新潟県東蒲原郡阿賀町両郷甲2200	六甲山の上美術館 「さわるみゆーじあむ」	2013.12	兵庫県神戸市灘区六甲山町北六甲 4512-808
ドナルド・キーン・センター 柏崎	2013.09	新潟県柏崎市諏訪町10-17	安倍文殊院 金閣浮御堂 靈宝館	2013.04	奈良県桜井市安倍山
長岡造形大学展示館 (MaRouの杜)	2013.06	新潟県長岡市千秋4-197	生駒ふるさとミュージアム	2014.02	奈良県生駒市山崎町11-7
新潟市マンガ・アニメ情報館	2013.05	新潟県新潟市中央区八千代2-5-7 万代シティBP2 1階	金峯山寺聚法殿 (吉野山ビジターセンター)	2013.04	奈良県吉野郡吉野町吉野山2430
にいがた文化の記憶館	2013.06	新潟県新潟市中央区万代3-1-1 新潟日報メディアシップ5階	湯浅おもちゃ博物館	2014.03	和歌山県有田郡湯浅町679
能生白山神社 宝物殿	2013.09	新潟県糸魚川市能生7238	河本緑石記念館	2013.05	鳥取県倉吉市魚町2524
やまこし復興交流館 「おたる」	2013.10	新潟県長岡市山古志竹沢甲2835	とっとり自然環境館	2013.10	鳥取県米子市大崎中海岸ノ-3421-9
樺平ビジターセンター	2013.06	富山県黒部市宇奈月町黒部奥山 国有林地内	村上家資料館	2014.03	島根県隠岐郡海士町海士1700-2
こまつ奥山交流館みよっさ	2013.05	石川県小松市八日市町72-3	岡山・吉兆庵美術館	2013.10	岡山県岡山市北区幸町7-28
サイエンスヒルズこまつ ひとものづくり科学館	2014.03	石川県小松市こまつの杜2	人と科学の未来館サイビア	2013.04	岡山県岡山市北区伊島町3-1-1 岡山県生涯学習センター
あわら市郷土歴史資料館	2013.07	福井県あわら市春宮2-14-1 金津本陣IKOSSA2階	イズミ史料館	2013.10	広島県広島市東区二葉の里3-3-1 イズミ新本社2階
越前市かこさとし ふるさと絵本館「碓」	2013.04	福井県越前市高瀬1-14-7	辻村寿三郎人形館	2013.10	広島県三次市三次町1236 三次市歴史民俗資料館内
山梨県立宝石美術専門学校附属 ジュエリーミュージアム (山梨ジュエリーミュージアム)	2013.09	山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階やまなしプラザ内	宇部市学びの森くすのき	2013.05	山口県宇部市船木内番田361-6
木島平村ふるさと資料館	2013.07	長野県下高井郡木島平村上木島1762 農村交流館内	CANDY PARK ヒトツブのヒカリ	2013.05	山口県光市小周防高尾568 カンロ(株)ひかり工場内
鍔絵 天香館	2013.04	長野県茅野市ちの3053	下関市消防防災学習館 「火消鯨」	2013.10	山口県下関市岬之町17-1
塩の道ちょうじや	2013.07	長野県大町市大町8日町2572	徳島大学歯学部 人体解剖と骨のミュージアム	2013.05	徳島県徳島市蔵本町3-18-15 徳島大学歯学部
市立岡谷美術考古館	2013.11	長野県岡谷市中央町1-9-8	豊島横尾館	2013.07	香川県小豆郡土庄町豊島家浦2359
満蒙開拓平和記念館	2013.04	長野県下伊那郡阿智村駒場711-10	五百亀記念館	2013.08	愛媛県西条市明屋敷238-2
水村喜一郎美術館	2013.05	長野県東御市本海野645	松山市北条鹿島博物展示館 (かしまる)	2014.03	愛媛県松山市北条辻1596-3
可児市荒川豊蔵資料館	2013.10	岐阜県可児市久々利柿下入会352	高知よさこい情報交流館	2013.04	高知県高知市はりまや町1-10-1
吉城の郷	2013.09	岐阜県飛騨市古川町大野町145-1	牧野富太郎ふるさと館	2013.04	高知県高岡郡佐川町甲1485
			岡垣町文化財展示室	2013.04	福岡県遠賀郡岡垣町海老津駅前10-16 2階地域交流センター内
			北九州市立香月・黒川ほたる館	2013.10	福岡県北九州市八幡西区香月西4-6-1

久留米市世界のつばき館	2014.03	福岡県久留米市草野町矢作490-2
黒崎歴史ふれあい館	2013.04	福岡県北九州市八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ1階
博多の食と文化の博物館 (ハクハク)	2013.04	福岡県福岡市東区社領2-14-28
松永文庫展示室	2013.07	福岡県北九州市門司区西海岸1-3-5 旧大連航路上屋1階
吉岡稔真記念館 [TOSHIMASA MUSEUM]	2013.08	福岡県北九州市小倉北区三萩野3-1-1 小倉競輪場4Fメディアループ
玄海町次世代エネルギーパーク あすぴあ	2013.07	佐賀県東松浦郡玄海町今村4560-1
佐賀大学美術館	2013.10	佐賀県佐賀市本庄町本庄1
諫早市美術・歴史館	2014.03	長崎県諫早市東小路町2-33
鄭成功記念館	2013.07	長崎県平戸市川内町1114-2
宇佐市平和資料館	2013.06	大分県宇佐市閑440-5
大分市埋蔵文化財保存活用 センター	2013.11	大分県大分市田原337-5

九州芸術の杜 平塚運一版画館	2013.05	大分県玖珠郡九重町田野1712-707 美術館通り
廣池千九郎中津記念館	2014.03	大分県中津市永添2423
国際うなぎLABO	2013.10	宮城県東臼杵郡美郷町南郷上渡川3057
鹿児島七ツ島ソーラー科学館	2013.11	鹿児島県鹿児島市七ツ島2-1-8 鹿児島七ツ島メガソーラー発電所 入口付近
志布志市埋蔵文化財センター	2013.04	鹿児島県志布志市志布志町安楽41-6
湧水町郷土資料館	2013.04	鹿児島県始良郡湧水町川西845-1
シェルミュージアム(貝展示館)	2013.11	沖縄県国頭郡今帰仁村古宇利538 古宇利オーシャンタワー
東南植物楽園	2013.07	沖縄県沖縄市知花2146
ヤンバルクイナ生態展示学習施設 クイナの森	2013.09	沖縄県国頭郡国頭村安田1477-35 安田くいなふれあい公園内
やんばる森のおもちゃ美術館	2013.11	沖縄県国頭郡国頭村辺土名1094-1 国頭村森林公園内

特集：2013年度リニューアル博物館情報

丹青研究所調べによる、2013年度(2013年4月～2014年3月)にリニューアルを実施した全国の博物館数は170館です。ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2013年度のリニューアル博物館について傾向を示し、都道府県別のリニューアル博物館リストを掲載します。

■2013年度リニューアル博物館の傾向

近年(2009～2013年度)の調査結果をもとに推移を見ると、139館→143館→155館→159館→170館となり、徐々にリニューアル博物館の数は増えていることがわかります。

施設・設備の老朽化や新たな機能・役割への対応、開館後の資料・情報・研究成果の蓄積に基づいた更新、時代に即した展示内容・手法の採用、周年事業や記念年にあわせた取り組みなど、その内容や要因は様々です。また、東日本大震災で大きな被害を受けた博物館が修復を経て、2年ぶりに再開した時期でもありました。東日本大震災の経験を踏まえ、防災に関する展示の見直しや、耐震補強、耐震改修に取り組む施設が各地で見られました。

2013年度リニューアル博物館には、苫小牧市美術博物館(北海道)、埼玉県平和資料館、市原湖畔美術館(千葉県)、台東区立朝倉彫塑館(東京都)、相模原市立相模川ふれあい科学館(神奈川県)、新潟市水族館 マリンピア日本海(新潟県)、富山県[立山]博物館、安曇野市豊科近代美術館(長野県)、静岡市立日本平動物園(静岡県)、佐野美術館(静岡県)、トヨタ産業技術記念館(愛知県)、京セラファインセラミック館(京都府)、UCCコーヒー博物館(兵庫県)、米子市美術館(鳥取県)、福岡市博物館(福岡県)、鹿児島市平川動物公園(鹿児島県)などが見ら

れました(後掲の「2013年度リニューアル博物館一覧表」をご参照ください)。

各館のリニューアル内容は、後掲の一覧表に記載しています。

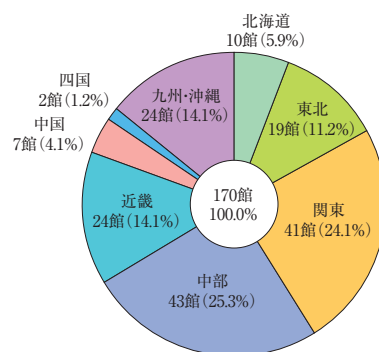
■地方別に見たリニューアルの傾向

新設の博物館と同様、関東、中部が多いことがわかります。近畿を含めた3つの地方で全体の6割以上に達しています。九州・沖縄は、新設の博物館と同様、リニューアル博物館の数も例年に比べて多く見られました。

関東は新設・リニューアルを合わせると69館、中部は同じく68館を記録し、年度内に数多くの施設が新たな姿を示していることがわかります。

都道府県別では、17館の東京を筆頭に、北海道、長野県、静岡県が各10館、神奈川県が9館、熊本県が7館、千葉県、新潟県、京都府が各6館、大阪府、兵庫県、福岡県が各5館となっています。一方、今回の調査では、徳島県、愛媛県、高知県、佐賀県の博物館におけるリニューアル状況を確認することはできませんでした。

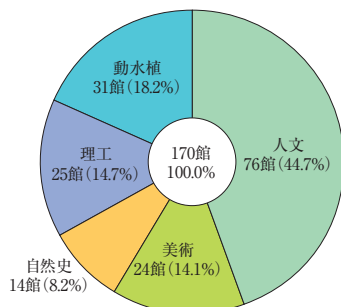
<図-1> 地方別リニューアル博物館数の比率



■館種別に見たリニューアルの傾向

全国に施設数の多い「人文」が、ここでも全体の44.7%を占めています。次に動物園、水族館などの「動水植」が多く、全体の18.2%を示しています。前回報告と比べると、「人文」「美術」の数値が増えています。

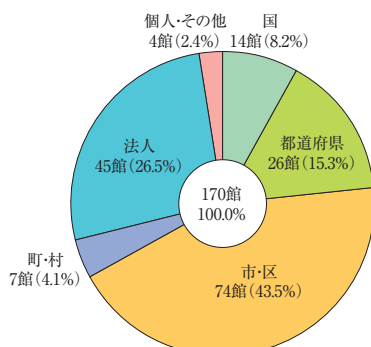
<図-2> 館種別リニューアル博物館数の比率



■設立主体別に見たリニューアルの傾向

新設の博物館と同様、「市・区」「法人」の比率は高いのですが、次いで「都道府県」の比率が高いのが特徴的です。前回報告と比べると、「国」「市・区」「法人」の比率が増えています。

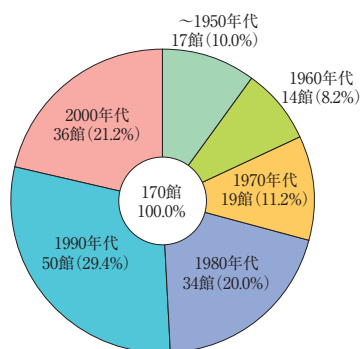
<図-3> 設立主体別リニューアル博物館数の比率



■開館年代別に見たリニューアルの傾向

図-4でわかるように「1990年代」「2000年代」開館の博物館で全体の半数を超えています。特に「1990年代」開館の博物館は全体の約3割を占めています。それぞれの年代の比率（構成比）は、前回調査の結果と近似しており、大きな変化は見られません。

<図-4> 開館年別リニューアル博物館数の比率



■リニューアルの形態について

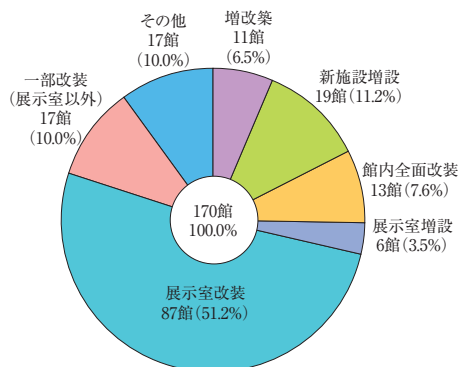
各館のリニューアル内容をもとに、「増改築」「新施設増設」「館内全面改装」「展示室増設」「展示室改装」「一部改装（展示室以外）」「その他」に分けて分析を試みました。なお、同一年度に複数のリニューアル（取り組み）を実施した館については、主要な内容を基に振り分けています。

集計した結果、「展示室改装」が最も多く、全体の半数以上を示しています。展示の改装が含まれている「館内全面改装」「展示室増設」を合わせると、全体の62.3%に該当します。

前回報告と比べると、「増改築」「新施設増設」「一部改装（展示室以外）」「その他」の比率が増えています。なお、本報告では、「移転新築施設」や「取り壊し新築施設」を新たな開設として扱っています。リニューアルの中で増改築や新施設増設といった比較的大きな改修を行っている施設が増えていることは、近年の顕著な傾向と考えています。

なお、「その他」には、施設の補修（震災や豪雨による被害からの復旧を含む）や設備の改修に関する事例を含めています。

<図-5> リニューアルの形態の比率



2013年9月、東京が2020夏季オリンピック開催都市に選ばれました。また、2013年はビジット・ジャパン事業が開始され、観光立国の実現に向けた取り組みが本格化して10周年の年でもありました。2013年6月に策定された「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」では、博物館・美術館において多言語対応の改善・強化を図ることが示されました。観光案内機能の強化やニューツーリズムの創出、地域の観光ポテンシャルの最大化、世界自然遺産や国立公園などにおける施設の高質化なども記されています。各地域において、国内外の観光客にその地域の魅力を伝えることは、博物館にとって大きな役割の一つです。2020年東京オリンピックパラリンピックの開催、その前年に京都で開催される第25回世界博物館大会（ICOM2019）など、国外から多くの入館者が訪れる機会が控えています。観光との関わりについても十分考慮に入れたリニューアルが一層求められます。「誰もが楽しめる博物館づくり」の実践が必要となっていることを強く感じています。

2013年度リニューアル博物館一覧表

旭川市旭山動物園【北海道旭川市】2013.11
新施設「きりん舎・かば館」がオープン。屋外・室内展示するカバエリアと屋外展示するキリンエリアの2つで構成。建物は鉄筋コンクリート製で、面積は屋外を含め約3,000㎡。カバとキリン各2頭をはじめ、ダチョウなどアフリカに生息する動物6種類を展示。カバエリアには、深さ約3mの水槽があり、水中を泳ぐカバの様子を横からや真下からなどさまざまな角度で間近に見ることができ。キリンエリアには、高い木の葉や枝を食べる様子を再現できるクレーン状の給餌装置を設置。キリンの目線の高さから足元まで移動しながら観察することができる
アポイ岳ジオパークビジターセンター（旧：アポイ岳ビジターセンター） 【北海道様似町】2013.04
大規模改修を終えて「アポイ岳ジオパークビジターセンター」がオープン。旧アポイ岳ビジターセンターはアポイ岳の高山植物や岩石、登山ルートなどの情報を伝えていた。様似町はアポイ岳ジオパークを活用した町の活性化に取り組んでおり、同センターに観光や教育の機能を加えることで、来館者に町全体を知ってもらうことを目的に改修を実施した。展示場所は旧施設の休憩所などを使って、約140㎡から約500㎡に拡大。施設の名称を「アポイ岳ジオパークビジターセンター」に改称した。施設はインフォメーションゾーン、地球科学ゾーン、自然・歴史・産業ゾーンの3つで構成。施設の中心にあるインフォメーションゾーンには、直径2mの円形をしたアポイ岳周辺のジオラマを設置
萱野茂二風谷アイヌ資料館【北海道平取町】2013.08
展示の一部をリニューアル。アイヌ民族の権利回復に尽力し、多数の著書を残した故萱野茂氏の書斎を再現し、顕彰コーナーを新設した。リニューアルは、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の「博物館等アイヌ資料展示・公開助成事業」を活用。1階の顕彰コーナーには、萱野茂氏が1994年にアイヌ民族として初めて参議院議員になった際の写真や解説資料、表彰状などを展示。2階に再現した書斎は6畳ほどの広さで、本の執筆の際に使った松材の机や、木彫り作品を作った作業台の複製品などを置いている
釧路市動物園【北海道釧路市】2013.10・2013.11
2013年10月、おびひろ動物園から釧路市動物園に移送されたアミメキリン「スカイ」が一般公開されるのに合わせて、キリンの観覧席を設置。観覧席は本造のログハウス風の箱形で、床面積は約15㎡。キリンがいる屋外の敷舎まで2.5mほどと近く、大人が立ったときの目線が、キリンの頭の高さ（約4m）になるように設計されているため、ガラス越しに迫力のある姿を見ることができる。「スカイ」を贈るために募金活動を行った市民団体「チャイルズエンジェル」が観覧席を作製し、寄贈した。2013年11月、西門近くに移設された新アルパカ舎がオープン。木造平屋建てで、広さは約55㎡。地産地消を進めるため、木材はすべて地元産のカマツ材を使用した
札幌芸術の森【北海道札幌市】2013.04
地中熱を利用した空調システムの導入、照明のLED化など、これからの時代に即したエコロジー仕様の施設改修工事を実施。ビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」(芸術の森センター2階)やカフェ「ラ・フォリア」(美術館1階)がオープン。ミュージアムショップもリニューアルして、運営を委託から美術館直営に変え、店名も「ポレール」(北極星の意味)に変更した
札幌市円山動物園【北海道札幌市】2013.04
動物たちが暮らす森などをイメージした遊具を配置した遊び場「まるっぱ」がオープン。2010年に閉鎖された遊園地に代わる子ども向けのスペース。2010年に「円山子供国キッズランド」がアジアゾーン建設のために閉鎖して以来、子どもが遊べる施設を求める声が強く、同園西門付近（約1,900㎡）に3つの大型遊具と広場を組み合わせたスペースを建設した。飼育員の意見を取り入れ、森の中を移動するイメージで、滑り台やつり橋を組み合わせた幅約30m、高さ約3mの遊具「ジャングルコンビネーション」を設置。「プレリードッグの巣穴」と名付けた遊具は、小高い丘を造り、最長18.2mのトンネルを通して、丘の中央から顔を出すことができるようにした。ユキヒョウのすみかの岩場を網で再現した「ユキヒョウの昼寝」も設置
苫小牧市美術博物館（旧：苫小牧市博物館）【北海道苫小牧市】2013.07
苫小牧市博物館が苫小牧市美術博物館としてリニューアルオープン。既存の博物館に約150㎡の展示室を増築し、既存の2つの展示室も改修した。展示室とともに新設したラウンジ(80㎡)は、市民文化公園側をガラス張りにすることで、鑑賞前後にソファに座りながらゆっくり過ごすことができるようにしている。博物館と美術館の機能を併せ持つ施設として生まれ変わった
苫小牧ポートミュージアム【北海道苫小牧市】2013.07
苫小牧西港フェリーターミナル3階の博物館「苫小牧ポートミュージアム」が展示内容を一新。フェリーや荷役作業の仕組みなどを紹介するパネルを設置。係留用ロープや国際信号旗なども展示した。同ターミナルを運営する苫小牧港開発株式会社の創業55周年と苫小牧港開港50周年の記念事業として実施。2階レストランの全面改修と多目的ホール「ループ」の新設も行った
根室市歴史と自然の資料館【北海道根室市】2013.11
考古資料の展示スペースの改修工事を実施。国道などの拡幅工事で発掘資料が大幅に増えたことから、館の内部を改修。土器や土偶などを壁に備え付けた台座に並べることで、展示資料を3倍に増やした。オホツク文化や縄文文化など、時代ごとに出土品を展示。温根元とノッカマップの「チャシ跡」のジオラマ2基も作製した
八雲町郷土資料館・八雲町木彫り熊資料館【北海道八雲町】2014.03
八雲町林業研修センター内の八雲木彫り熊展示室を拡充し、木彫り熊資料館として改装オープン。それまでの展示は八雲町関連の木彫り熊と資料のみだったが、展示対象を全道に広げた。拡充した展示スペースは、従来の施設の2倍にあたる約130㎡になり、町民らに提供を呼び掛けるなどして集めた木彫り熊など約400点を展示している。旭川で最初に木彫り熊を始めたことで知られる松井梅太郎をはじめ、現代の名工たちの作品も紹介。大正時代にスイス土産の木彫り熊を八雲に持ち帰り、農家の副業として奨励した尾張徳川家19代当主・徳川義親の功績を紹介する展示も増やした
青森県防災教育センター【青森県青森市】2014.03
東日本大震災の教訓などを踏まえ、展示改装を実施。展示内容を大幅に見直すとともに、体験型の展示設備を増やし、県民の防災意識の向上を図る。センターは県消防学校の建物1階にあり、今回は新たにフロアを「防災の心得」「応急手当」といったテーマごとに分け、10カ所のコーナーを設置。津波のコーナーでは高さが体感できるように、壁に1mごとに目盛りを付した。段ボールで個人スペースを開いた避難所の様子も再現した。地震体験コーナーでは、家庭の居間を模したスペースで震度4〜6弱の地震を体験することができる。ほかにも、煙が充満した部屋から逃げる体験や、119番通報体験などを行うことができる

青森県立郷土館【青森県青森市】2014.03
3階りんごと青森県展示室の隣りに「成田彦彦コレクション」コーナーを開設(2011年に、成田彦彦氏のコレクションのうち、歴史美術関係資料約3,000点の寄贈を受けた)。同コーナーでは、成田彦彦氏のコレクションの中から、蝦夷地探検家・松浦武四郎が刊行した地誌や間宮林蔵の探検報告書などの和本類、幕末維新期の津軽面置で活躍した平尾魯仙の弟子である佐藤藤の植物画などを展示。また、年表により同氏の足跡を紹介している。3階にある先人展示室「輝いた郷土の先人たち」をリニューアル。パネル中心の展示から実物中心の展示に改装した
八戸市博物館【青森県八戸市】2014.01
地域の芸能や方言、昔話などを紹介する無形資料展示室を開館以来31年ぶりに改修。タッチパネル式の端末を導入し、それまで音声中心だった展示に映像を加えた。情報端末で放映する資料として、従来の民謡、昔話、方言、わらべ歌に加え、校歌、観光地や祭りのPR映像、郷土芸能・えんぶりの各演目の紹介映像を所収した。校歌は改装時点で、小学校50校、中学校24校、高校1校の計75校分(近年閉校となった3校を含む)。タッチパネルで校旗のマークを選ぶと、校舎や児童・生徒の映像、歌詞の字幕とともに校歌が流れる
三沢市歴史民俗資料館【青森県三沢市】2013.10
「津波災害コーナー」を新たに開設。東日本大震災など、青森県の津波被害や防災対策に関する展示を設置。年表や写真・図版、関連書籍を通じて、度重なる被害をもたらした津波の恐ろしさを知るとともに、行政と住民が力を合わせた海岸防災林づくりの歴史などを学ぶことができる。三沢市在住の元小学校長で「人・自然・教育研究所」所長を務める川村正氏が収集し、テーマごとにまとめた資料を中心に展示
千田正記念館【岩手県金ヶ崎町】2014.03
千田正記念館の修復が完成。東日本大震災によって被害を受けた同記念館を構成する生家、旧県知事公舎応接室(正光館)の復旧工事を完了。震災の影響で生家は壁全体に亀裂や落下、正光館は入口ドアに歪みが生じるなどの被害を受け、復旧工事を行っていた
とのお物語の館（旧：とのお昔話村）【岩手県遠野市】2013.04
とのお昔話村「とのお物語の館」となっておりリニューアルオープン。2012年10月から旧「とのお昔話村」の全面改装を行い、名称も変更した。4,866㎡の敷地に昔話蔵、柳田国男展示館、郷土芸能や語り部が昔話を実演する遠野座などを整備。昔話蔵では、テーブルに設置された鉄製の小づちなどを触ると、映像と音が流れたり、主人公を選んで自分だけの物語をつくったりと、映像と昔話を融合した世界が体験できる。「遠野物語」の基礎となる伝承を柳田国男に紹介した佐々木喜善を紹介するコーナーのほか、映像ライブ러리や絵本コーナーも設けられている。柳田国男展示館は、柳田が同市を訪れたときに滞在した旧高善旅館を改装した展示館と、東京(世田谷区成城)から移築した隠居所を配置。柳田の生涯と足跡を映像や資料で紹介している。かつての造り酒屋の蔵を利用した劇場空間「遠野座」のほかにも、敷地内には食事処の伊藤家、物産館の赤羽根蔵(ともに2012年4月先行オープン)などが整備されている。段差の解消やスロープの設置など、ユニバーサルデザインに配慮した施設改修を行っている
盛岡市子ども科学館【岩手県盛岡市】2013.07
ブラネトリウムをリニューアル。デジタル式投映機システムを最新のものに更新。株式会社五藤光学研究所が開発した「VIRTUALIUMⅡ(バーチャリウムⅡ)リリース5」を導入して、地球上から宇宙空間に至るまで、星空などを3次元的に投映することが可能となった。解像度が高くなるとともに、スクリーンが6分割から2分割になり、つなぎ目が目立たなくなったことで、より精密で美しい映像を投映することができる。いろいろな惑星をさまざまな視点から見られるようになり、地上の景色も実際の地形を基に作成することができるようになった
歴史公園えさし藤原の郷【岩手県奥州市】2013.09
開園20周年を記念して、同公園内に「トリックアート平安の館」をオープン。同館2棟には世界で初めて、平安時代を題材にしたトリックアート作品が描かれている。同館は既存の義経館(64㎡)、弁慶館(32㎡)を活用して完成。トリックアートの企画・制作は株式会社エス・デー(栃木県那須町)が手掛けた
角田市郷土資料館【宮城県角田市】2013.04
東日本大震災で壁が崩落するなどして休館していた同館の震災復旧工事が完了し、約2年ぶりにオープン。同館は、明治初期から大正期にかけて旧大地主が建築した「旧氏文邸」(市指定文化財)。震災では土蔵のなまこ壁や瓦が崩壊したほか、柱が折れるなど大きな被害が出たため、復旧工事を行った
唐桑半島ビジターセンター・津波体験館【宮城県気仙沼市】2013.04
1984年の開館以来初の全面リニューアルを実施。館内の展示や津波体験館の映像などをリニューアル。ビジターセンター内では、唐桑半島の自然や暮らし、津波の歴史や四季を彩る植物などをパネル展示。映像・音響・振動・送風などを組み合わせた全国初の津波擬似体験館である津波体験館には、それまでの明治三陸大津波や昭和三陸津波などの記録画中心だった映像に、東日本大震災の映像や地元の漁師や消防士の証言・地震のメカニズムの説明などを追加し、防災教育に役立つ内容に変更。また、映像機のリモコン、スライド式天井及び自動カーテンのセンサー交換、カーペットやカーテン、シートの張替えなど、老朽化した設備の改修も行った
宮城県県長使節船ミュージアム(サン・ファン館)【宮城県石巻市】2013.11
東日本大震災の津波で被害を受けた同館が2年8ヵ月ぶりに再開。仙台藩士・支倉常長が率いた慶長遣欧使節が乗った「サン・ファン・パウティスタ号」の復元船などが津波で損傷し、休館が続いていたが、船の修復や館内の整備が完了。慶長遣欧使節出帆400年に合わせて最開港を果たした。海岸部に位置するドック棟は、津波により展示物が流失するなど大きな被害を受けたため、改修後は復元船を取り囲むオープンスペースとして新たに生まれ変わった
リアス・アーク美術館【宮城県気仙沼市】2013.04
東日本大震災で施設が被災した後、常設展示や市民の利用スペースなど一部での再開が続いていた同館が全館で再開。同館の常設展示は、地域の芸術家の作品を集めた「美術作品」と、漁具や農具などを並べた「民俗資料」の2本立てだったが、全館再開を機に、地震や津波の恐怖を後世に伝えるため、震災発生時から芸芸員たちが自主的に集めた写真や資料を公開する「新常設展示」を開設した。「東日本大震災の記録と津波の災害史」と題された新常設展示(1階)では、被災現場写真203枚のほか、震災で壊れた洗濯機や携帯電話などの被災物155点、津波について書かれた明治時代の雑誌などの歴史資料137点の計495点が展示されており、津波の脅威と奪われた日常生活の貴さが伝わる内容になっている。被災現場写真は、芸芸員が震災直後から撮りためた3万枚から選んでいる
秋田県男鹿水族館【GAO】【秋田県男鹿市】2013.04
新施設「ひれあし's館(ずかん)」がオープン。アシカとアザラシを展示。大型展示施設の新設は開館9年ぶりで初めて。新施設の名称は、ひれ状の手足を持つ鰭脚類の展示と、コンセプトの「生きている図鑑」を掛けた。カリフォルニアアシカ1頭とゴマフアザラシ4頭を飼育している。建物は地上2階地下1階、延床面積659㎡。1、2階の吹き抜けにアザラシとアシカの大型水槽(水深3〜4m)を各1基配置。館内にはアシカとアザラシの違いを解説したパネルなどを設置し、ひれあしを持つ鰭脚類への理解が進むようになっている。施設は、津波発生時に本館から素早く裏山へ避難する経路も兼ねている

秋田県防災学習館（旧：秋田県消防学校防災センター）〔秋田県由利本荘市〕2014.03 秋田県消防学校防災センターが「秋田県防災学習館」となっておりオープン。1990年開設の同防災センターの老朽化に伴い、2013年2月から大規模な改修を実施。新たな施設として、防災学習・ライブラリーコーナーと防災シアターを整備。既存の施設の改修として、消火体験コーナー、映像・地震体験コーナー、煙中体験コーナー、通報体験コーナーなどを最新の機器に更新した。150インチの大型スクリーンでオリジナルの防災啓発映像を視聴できる「防災シアター」では、JR秋田駅周辺など県内の風景を交えたドラマ仕立ての映像で、地震発生時に教室や車、自宅などにいた場合、どのように行動すべきかを字幕とともに紹介している
秋田市大森山動物園〔秋田県秋田市〕2013.08 アフリカゾウに餌を与え、食べる様子を観察できるコーナー「ゾウとはなスポット」を新設。同スポットは、ゾウ展示場の柵の内側に設けられた箱型の施設（幅2.4m、奥行き1.5m、高さ2.2m）。透明で割れにくいポリカーボネート板や金網で覆われ、至近距離でゾウを見学することができる。ゾウの「鼻」と「首」と「話す」をかけて「はなスポット」と名付けた。ポリカーボネート板には餌やりの直径4cmの穴が3つ開いており、来園者が固形飼料を落とすと、ゾウが近寄ってきて、鼻を伸ばして餌を取ってくれる
庄内映画村資料館〔山形県鶴岡市〕2013.04 映画「おしん」の撮影で使用した室内ロケセットを移築公開。ロケセットは、おしんが奉公先を脱出し、逃げ込んだ雪山の山小屋（約33.2㎡）として使用された。鶴岡市内で撮影した後、資料館の2階に移した。藁を敷き詰めた居間や、水瓶が並ぶ炊事場、部屋の片隅に積み上げられた薪などが、撮影現場の雰囲気伝える。撮影に使われた蓑蓑やハーモニカ、五十銭硬貨も展示。画家でもある平野館長が撮影に同行し描いた「従撮画」も紹介されている。資料館の大幅リニューアルは2011年2月に続き3回目
山形県立博物館〔山形県山形市〕2013.04 「縄文の女神」の愛称で親しまれる「西ノ前遺跡出土土偶」が2012年9月に国宝に指定されたことを受けて、土偶を所蔵する同館は常設の国宝展示室を設置。専用展示室が整備され、セキュリティ面でも国宝展示に必要な環境が整った。新たにできた国宝展示室は約20㎡。第2展示室の一角を区切って整備した。有機EL照明を使用し、新たに監視カメラ、振動センサーを設置した。「縄文の女神」と同時に出土した土偶の破片「土偶残欠」(国宝附)47点も展示している
須賀川市立博物館〔福島県須賀川市〕2013.11 2階の常設展をリニューアル。開館以来初となる常設展の大規模リニューアルを実施。新たに博物館に収蔵された資料や、これまで展示されなかった未公開資料などを加え、須賀川の歴史を違う視点で知ってもらうために展示替えを行った。また、円谷幸吉や首藤保之、服部躬治、ケサ、てい（水野仙子）兄妹、小林久敬を紹介する「すかがわの偉人顕彰室」を新たに開設。年に1、2回展示替えを行い、郷土の偉人を3、4人ずつ定期的に紹介している
ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）〔福島県いわき市〕2013.04・2013.09・2014.02 2013年4月、屋外施設「蛇の目ビーチ」が2年1カ月ぶりに本格オープン。このビーチは、ふ頭の緑地に防水シートを張って、半円形の敷地約4,500㎡の中央に、海水で干潟や磯、砂浜などの海辺を再現したもの（2007年4月28日オープン）。生物とふれあえる水族館の「タッチプール」としては国内最大級。東日本大震災で防水シートが破損し、生き物が流される被害を受けていた。波を起こしたり潮の満ち引きを再現したりする装置の復旧工事を急ぐため2013年1月にいったん閉鎖し、大型連休初日の再開に至った。2013年9月、2階「潮目の大水槽」前に「潮目の海」HAPPY OCEANSがオープン。水槽を優雅に泳ぐ魚たちを眺めながら、お寿司を堪能できる。世界人口増と海洋資源の持続可能な利用のメッセージを伝えるため、資源量の定した「ねた」を中心に提供している。2014年2月、「福島・クウェート友好記念庭園」が完成。安部館長がクウェートの科学研究所で研究員育成に貢献したのが縁で、同国が水族館に300万ドル（約3億円）の震災支援金を贈り、館は復旧費用に充てた後、8000万ドルを庭園建設に使った。庭園の総面積は約9,800㎡。阿武隈山地を源とする駿川から太平洋までの自然と、砂漠のオアシスをイメージしている。池にはアラビア語で「サラーム」(平和)と刻まれた、高さ約2mのモニュメントが浮かぶ。クウェートの植物を集めた温室もある。2014年2月、和歌山県串本町に「アクアマリンふくしま水生生物保全センター串本分館」がオープン。アクアマリンふくしまに併設され、本館の展示を支えている水生生物保全センターが地震と津波により壊滅的被害を受け、2013年度からようやく本格的な復旧工事が行われる予定であったため、主要な収集地である和歌山県串本町に施設を確保し、保全センター分館機能を持たせた。串本分館では、サンマの収集蓄養、人工孵化を試みる等によって本館の展示に寄与するとともに、バショウカジキなどの外洋性魚類や深海魚の収集、飼育技術開発を推進することで新規展示の礎にする考え
北茨城市漁業歴史資料館「よう・そろー」〔茨城県北茨城市〕2013.07 東日本大震災の津波被害で休館していた同館の復旧工事が完了し、約2年4カ月ぶりにリニューアルオープン。建物の外観や展示コーナーを一新し、震災に特化したメリアル展示室を新設。津波では1階天井付近まで浸水し、展示物の多くが流失。館内に展示されていた国選択無形民俗文化財「常陸大津の御船祭」の祭事船も損傷した。2012年10月から展示物や外観のリニューアル、祭事船の修復を実施。1階には、元の姿を取り戻した祭事船や漁具などを展示。第1展示室「明日を信じて元氣! 東日本大震災と北茨城」では、市民37人の震災体験談を映像で紹介している。第2展示室では同市の歴史や漁法などをパネルで紹介。クイズ形式で魚の生態を学ぶこともできる。2階の第3展示室では、あんこう鍋やどぶ汁の作り方、市内の観光スポットなどを紹介
国立科学博物館 筑波実験植物園〔茨城県つくば市〕2013.05 園内の研修展示館がリニューアル。常設展示を改装。来館者が実物の木の実に触ったり、花の匂いを嗅いだりすることができるよう体験型展示に改めた。クイズやパズルも導入。楽しみながら自然の仕組みを学べる内容になっている。常設展示のテーマは「つながる多様性」。植物と動物が互いに依存し合っている自然界の「共生」の状況をパネルやゲームを通じて説明。衣服や家具など、植物は人間の生活の中にもある身近な存在であることを示している
予科練記念館（雄翔館）〔茨城県阿見町〕2013.04 第二次世界大戦中、旧日本海軍航空隊の中核となった予科練出身者の遺品を展示する「雄翔館」が展示内容を刷新。来館者が見やすいように、写真や遺書、手紙などを戦死者1人につき1枚のパネルにまとめ、47人を戦没年代順に掲示した。掲示しきれなかった約100人分については、館に備え付けのパソコンで遺書などを閲覧することができる。所蔵する約450人の顔写真もパネルに一覧にして整理した
那須とびっくりあーとびあ〔栃木県那須町〕2013.12 「那須とびっくりあーとびあ」の常設館3館の一つ「ミケランジェロ館」がリニューアル。ダビデ像の肩に乗ったかのような写真が撮れる作品など、同館に併設されたアトリエの製作スタッフ12人が書き下ろした4点をはじめ、新作は10点以上を設置。同館のテーマであるルネサンスの芸術を感じてもらいたい、内装・外装も一新。壁には大理石調の模様を描き、エレベーターのドアにはかばんが挟まっているようなペイントを施して、来館者を楽しませる工夫をしている
矢板市立郷土資料館〔栃木県矢板市〕2014.03 常設展をリニューアル。展示を古代から現代へとたどる通史展示に変更するとともに、江戸時代や学校の歴史のコーナーを新設。近現代を含め衣食住など生活の場面ごとに展示を区切り、小学校の社会科見学や家族と訪れる子どもたちが興味を持てるように工夫した

竹久夢二伊香保記念館〔群馬県渋川市〕2013.08 新たに「別館 夢二子供絵の館」がオープン。記念館に隣接する建物の1階部分約250㎡に、夢二が子どもの世界にスポットを当てた50点の作品を展示。それまでアンティークオルゴールの演奏・展示を行っていた「別館 音のテーマ館」をリニューアルして整備
川口市立科学館（サイエンスワールド）〔埼玉県川口市〕2013.11 プラネタリウムをリニューアル。最新鋭の統合型プラネタリウム「ジュミニスターⅢ」(コニカミノルタプラネタリウム株式会社製)を導入。新たに導入されたデジタル式プラネタリウム「スーパーメディアグローブⅡ」と光学式プラネタリウム「インフィニウムβⅡ」の組み合わせにより、自然に近い美しい星空とともに、宇宙シミュレーション機能による最新の宇宙の姿など、多彩な映像を投映することができる
埼玉県大宮公園小動物園〔埼玉県さいたま市〕2013.07 開園60周年を記念して、猛獣舎(クマ舎・ハイエナ舎)の改修、カピバラ舎の新設を実施。クマ舎にはニホンツキノワグマ2頭が、ハイエナ舎にはプチハイエナ2頭が入った。両舎とも従来は鉄柵越しに展示していたが、改修後は強化ガラス越しに見学できるようになった。運動場のスペースも広げ、クマとハイエナの迫力ある姿を見られるようにした。カピバラ舎は「カピバラの遊び場」と行き来できる場所に設置
埼玉県平和資料館（埼玉ピースミュージアム）〔埼玉県東松山市〕2013.10 開館20周年を記念して改修を行い、新たな愛称を「埼玉ピースミュージアム」にしてオープン。施設の入口には世界地図やハトが描かれ、県立松山女子高校書道部が「平和」と「創造」の文字を書き込んだ大壁画（縦8.5m、横18m）を設置。常設展示室には「平和の創造」をテーマに、国際協力機構（JICA）の政府開発援助（ODA）、自衛隊による国連平和維持活動（PKO）などを紹介するパネル展示を追加。展示室のフロア（タイムトンネル）は明るみに改修した
市川市文学ミュージアム（旧：市川市文学プラザ）〔千葉県市川市〕2013.07 生涯学習センター（メディアパーク市川）2階の「映像文化センター」と3階の「文学プラザ」の改修を行い、市川市文学ミュージアムがオープン。文学ミュージアムは、映像文化センターと文学プラザを統合し、機能を強化する形で整備。通常展示フロア、企画展示室、資料室などで構成。3階の旧文学プラザは、資料室として活用。260人を収容できるグリーンスタジオや映像メディア編集室などの施設も併設。「文学館」と「映像文化センター」と「施設提供」の3つの機能を有する
市原湖畔美術館（旧：市原市水と彫刻の丘）〔千葉県市原市〕2013.08 市原市水と彫刻の丘が「市原湖畔美術館」としてリニューアルオープン。1995年開館の旧施設を2年間をかけて改修。独特な回遊性を持つ旧施設の骨格を活用。内部はコンクリートがむき出しになった壁に「アートウォール」という壁面を増設した。モダンなデザインに生まれ変わった館内には、国内外の有名作家の作品のほか、市内在住の国際的銅版画家・深沢幸雄氏のアトリエを再現した常設展示室を新設。コンセプトは「新しい感覚を味わう美術館」に設定。展示内容も現代美術中心となった。リニューアルに際して、敷地内にはレストラン「Pizzeria BOSSO」も新たにオープン。房総の食材を使用したビザを中心とした食事を楽しむことができる。2014年春に市内で開催されたアートイベント「中房総国際芸術祭 いちはらアート×ミックス」の中核施設としての役割も担った
鴨川シーワールド〔千葉県鴨川市〕2014.03 トロピカルアインド内「イベントプラザ」にコンピューターグラフィックス（CG）と3D映像を用いた国内初の実参加型展示施設「サンゴ礁の願い〜 Coral Message〜」がオープン。高さ約2m、横約8mの「デジタル水槽」。来場者が専用端末に示された数種類の中から好きな魚を選んで色を塗ると、描かれた魚が大型スクリーンに映し出された「サンゴの海」を泳ぎ回る。色とりどりのサンゴやクマノミ類などの展示をとおして、サンゴ礁の多様性を紹介し、その保全の重要性を訴えるとともに、CGと3D映像を用いた参加型ツールによってサンゴ礁の多様な生態系について楽しく学べる施設にリニューアル。同園が監修して日本で初めて導入した設備。また、日本で唯一シャチを見ながら食事ができるレストランも全面改装。レストラン「オーシャン」は、カフェテリア方式からフードコート（208席）とレストラン（60席）へと大幅変更。フードコートは、水中をイメージした空間でシャチを見ながら食事ができるスペシャルゾーン「UNDERWATER（アンダーウォーター）」と砂浜をイメージしたリネックスカフェゾーン「BEACH（ビーチ）」に分かれており、ダイニングゾーン「the CAVE（ケイブ）」は、洞窟をイメージした落ち着いた空間の中で食事を楽しむことができる
航空科学博物館〔千葉県芝山町〕2014.03 2階東棟の「NAAコーナー」がリニューアル。1989年の開館当初から展示されていたジオラマを一新。成田空港の800分の1サイズのジオラマ展示が、コンピューターグラフィックス（CG）による航空機の映像と連動する仕組みに刷新された。カメラ付きのタブレット端末をジオラマにかざすと、拡張現実（AR）の技術で、発着する航空機が重なって見える。登場する機体は実際の運航スケジュールを反映。空から空港の様子を眺める気分が味わえる。タブレット端末7台と大型モニターが用意され、個人のスマートフォンも専用アプリをダウンロードすれば使うことができる。ジオラマ自体には空港最新施設の模型が追加された。同コーナーにある「音の体験ルーム」の内容も一新。ドーム型スクリーンに映る約8分間のパノラマ映像や迫力あるサウンドにより、航空機の音を視覚と聴覚で体感することができる
DIC川村記念美術館〔千葉県佐倉市〕2013.07 樹木や草花など計150種が観賞できるフラワーガーデンがオープン。同ガーデンは、美術館自然散策路から一番奥にある蓮池近くのショウブ畑地約750㎡に新設。芝生の広場中央には豪州などに分布する樹木「ティーツリー」が配された。広場から樹木や草花の堀で囲われた庭に入ると、黄・青の花を咲かせる植物を植えた「光と陰」、葉の色や形が楽しめる「リーフガーデン」、さまざまな色彩の花々が配置された「色彩の凝縮」の3つのゾーンが設けられている
渚の博物館（館山市立博物館分館）〔千葉県館山市〕2013.04 「渚の駅」たてやまにある渚の博物館（館山市立博物館分館）2階企画展示室の一部を、市民ギャラリー「渚のギャラリー」としてオープン
科学技術館〔東京都千代田区〕2013.04・2013.10・2013.11 2013年4月、3階G棟に「ブルガリア博士のヨーグルト研究室」がオープン。ヨーグルトに関わるプロバイオティクス研究に対して一般の関心を高めるために展示を開設。子どもたちが興味を持って学べるように、歴史的な乳酸菌研究者の功績を描いた大きな絵本や、腸内の善玉菌と悪玉菌の関係をカードゲーム形式で体験学習するコンピュータ・ゲームなどを設置。2013年10月、6階実験工房がリニューアルオープン。主に化学や生物の実験教室、気象や天文の観測教室などが実施しやすいように、さまざまな実験設備・器具を新調・導入すると、理科実験用途の部屋を全面改装。2013年11月、地階レストラン「パークレストラン」がオープン
渋谷区立松濤美術館〔東京都渋谷区〕2014.01 開館以来初の大規模改修を実施。築30年以上が経ち、電気系統や配管に劣化が見られることから、温湿度の管理や紫外線対策など展示空間の環境改善も併せて、外観や内装をできる限り変えずに改修を行った。空調設備やサッシを交換し、トイレもリニューアル

JAL工場見学〜SKY MUSEUM〜【東京都大田区】 2013.07
機体整備工場見学施設を改修して「JAL 工場見学〜SKY MUSEUM（スカイミュージアム）〜」としてリニューアルオープン。1951年の会社設立以降の史料を初めて一般公開するとともに、JALグループのフライトを支える運航乗務員、客室乗務員、航空整備士、空港スタッフ、グラウンドハンドリング・貨物スタッフの仕事紹介ブースを新たに設置。「アークイブズエリア」「仕事紹介エリア」「新商品・サービスエリア」「航空教室」「制服体験エリア」「グッズショップ」などで構成
セイコミュージアム【東京都墨田区】 2013.12
1階のスポーツ計時展示コーナーをリニューアル。家族連れや若い来館者がスポーツ計時により親しむことができるように、アスリートが実際に競技大会で使用した機材に直接触れて楽しめるようにした。1964年の東京オリンピックで世界で初めて総合的な電子計時を行った「デジタルストップクロック」をはじめ、数々のストップウォッチ、フォトフィニッシュカメラなどを展示。スポーツ計時の歴史と主な計時システムのパネルを設置するとともに、「陸上スターティングブロック体験コーナー」を新設。「水泳タッチ板体験コーナー」では、水泳用スターティングブロックとそこから飛び込む選手のカットアウトパネルを追加
総務省統計局 統計資料館【東京都新宿区】 2013.04・2013.10
2013年4月、展示ブースなどの再構築を含むレイアウトの見直しをはじめ、タブレット端末を導入した館内ガイドや企画展示コーナーを新設するなどのリニューアルを実施。企画展示コーナーを新たに設置した。2013年10月には、企画展示コーナーの拡充や「日本地図でみる統計データ」コーナーを新設するなど、展示内容の充実を図った
台東区立朝倉彫塑館【東京都台東区】 2013.10
彫刻家・朝倉文夫のアトリエと住居を公開する同館が、大規模な改修工事を終えて約4年半ぶりに再オープン。建物の老朽化が進んでおり、耐震補強も必要だったため、2009年4月から改修工事のため閉館していた。改修では、文化的な価値を高めるために、朝倉の生前の造りに戻す方針がとられた。建物脇の倉庫を撤去してアトリエ部分の採光を高め、かつてのアトリエの雰囲気を再現。住居部分の壁についても、色や材質を復元した。床下に格納されていた電動昇降制作台（深さ7.3m）も実際に動かすことができるようになった。照明器具も当時の写真をもとに復元。窓のアルミサッシは以前の鉄製に戻された。書斎には、恩師である岩村透の旧蔵書が天井までびっしり積みれ、以前あった展示ケースは撤去された
台東区立書道博物館【東京都台東区】 2013.06
洋画家・中村不折が明治時代に建てた大谷石造りの蔵を同館の庭園に移設・復元。旧宅から不折が転居後、蔵を覆う形で住宅が建てられたため所在不明だったが、2011年の住宅取り壊しで見つかり、博物館に移築された。蔵は幅2.7m、奥行き1.8m、高さ3.25m
東京消防庁消防防災資料センター 消防博物館【東京都新宿区】 2014.03
館内展示の一部をリニューアル。新たな展示として、高層マンションで災害に遭遇した時の対処方法等について（10階）、江戸時代の大火から得られるさまざまな教訓等について（5階）、過去の災害から得られる教訓等について（4階）、地下空間の災害の特性と乗り物利用中に災害に遭遇した時の対処方法等について（B1階）を追加。より身近につながる防火防災に学ぶ展示を追加した
東京大学総合研究博物館小石川分館（建築ミュージアム）【東京都文京区】 2013.12
東京大学総合研究博物館小石川分館が、建築ミュージアムとしてリニューアルオープン。2001年の開館後は大学所属の学術資料を展示・公開してきたが、同館の建物が旧東京医学校という歴史的建造物である特徴を生かし、「建築」がテーマの施設に生まれ変わった。常設展「建築の博物誌 ARCHITECTONICA」は、幅広い視点で「建築」を捉える内容。6つのコーナーには古今東西の有名建築を異なる縮尺で制作した模型に加え、貝類標本、多面体などの数理解学模型や民族学資料が並ぶ
東京都井の頭自然文化園【東京都武蔵野市】 2013.05
熱帯や亜熱帯に生息する鳥類、哺乳類6種16羽（頭）と植物を展示する「仮設オオコウモリ舎」が完成。ヤクシカ展示場の隣に設置。内部は熱帯植物のベンジャミンやハイビスカスが広がり、オリーブオオコウモリやシロムネオオハシなどが展示されている。それまでの熱帯鳥温室は、築50年以上を経て老朽化が進み、東日本大震災でガラス100枚が割れるなど耐震性にも問題があったため、新施設を整備した（熱帯鳥温室は2013年6月2日に閉館）。新施設は、熱帯鳥温室の動植物を収容する仮施設との位置付け
東京都江戸東京博物館分館「江戸東京たてもの園」【東京都小金井市】 2013.04
西ゾーンに、19世紀末にドイツで流行した芸術様式を伝える西洋式住宅「デ・ラランデ邸」が復元された。ドイツ人建築家ゲオルグ・デ・ラランデの邸宅は、1999年まで新宿区信濃町にあった。木造3階建て延床334㎡。室数は13。外装は赤いスレート葺きの腰折れ屋根と白い外壁で、改修当時の資料を基に再現した。デ・ラランデ邸は同園30施設目。1階の食堂は、研究者が保存していた写真などをとくに、シャンデリアやリリーフを復元。2階の寝室は当時のドイツ一家の暮らしを想定して再現した。来園者により楽しむための、食堂とテラスを使ったカフェ「武蔵野茶房」も開設した
東京都多摩動物公園【東京都日野市】 2013.04
新施設「アジアの平原」がオープン。世界で唯一の野生馬とされるモウコノウマ8頭と、日本では既に絶滅したタイリクオオカミ12頭が、隣り合った施設で一体的に飼育・展示されている。大平原を駆け回る、本来の生息環境により近づけようとの試み。岩場や丘を再現し、大陸の自然に近い雰囲気を出している。ガラス越しに動物を間近に見られる場所も設けられている。新施設は、エキヒョウなどを展示する「アジアの山岳」エリアの隣に新設。施設面積は約8,000㎡で、2011年度から約2年かけて建設した
東京富士美術館【東京都八王子市】 2013.10
新たに「アートライブラリー」がオープン。本館のミュージアムシアターの隣に整備。同館が刊行した特別展図録、収蔵品・名品図録、研究誌などに加え、主な美術雑誌・遂次刊行物や美術全集を閲覧することができる。タッチパネル式のパソコンで所蔵作品情報をはじめアート情報にアクセスできる「ART NAVI」も設置している
虹の下水道館【東京都江東区】 2013.04
体験型施設にリニューアル。2012年12月から休館して改修を実施。下水道管や水再生センター（下水処理施設）中央管理室などを実物大で再現。実物大施設を設置したことで「体験プログラム」を新設。マンホール内の探索、ジェット水流での清掃作業、微生物による浄化の仕組み、ポンプ稼働などを体験することができるようになる
日本科学未来館【東京都江東区】 2013.12
ミュージアムショップを、1階インフォメーションロビー正面からシンボルゾーン奥（以前はファストフードショップがあった場所）に移転してリニューアルオープン
東大和市立郷土博物館【東京都東大和市】 2014.03
プラネタリウムが、高性能な投影機「メガスターⅡB」を導入してリニューアルオープン。メガスターⅡBは都内のプラネタリウムでは初導入。投影できる星の数は、20年前の開館時から使われていた旧投影機約7,000個から、約1,000万個へと飛躍的に増え、雲のように表現していた天の川も、一つ一つの星の集まりとして示すことができた。デジタルソフトと組み合わせ、博物館の屋上から見た星や、過去と未来の天文現象を映し出すことで、より臨場感を増す演出も可能となった

目黒寄生虫館【東京都目黒区】 2013.06・2014.01・2014.03
2013年6月、展示室1階に「魚の寄生虫」をテーマとした新たなパネルを設置。展示室2階の「寄生原虫」パネルもリニューアル。同館の常設展示としては初めて、パネルに液晶モニタを組み込んだ。従来の展示に2種類を追加し、原虫の生活環がよりわかりやすくなるようイラストを一新し、病巣の画像などとともにまとめた。2014年1月、「魚の寄生虫」展示ケースを増設。魚類寄生虫の液浸標本に加え、淡水魚に寄生している様子を撮影したフタゴシの動画などが見られる。2014年3月、「風土病的寄生虫病」パネルをリニューアル。「風土病」と呼ばれる寄生虫病の現状が地図上に表示される、タッチパネル式のパネルを製作。日本国内でこれらの発生がどのように推移してきたか、過去と現在の比較ができるようになっている
神奈川県立生命の星・地球博物館【神奈川県小田原市】 2013.08
ミュージアムシアターの上映装置（映像機器）をリニューアル。映像などの搬出システムの更新及び大型映像プロジェクターの設置を実施。新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を公開。箱根の自然や箱根火山の生い立ちなどを紹介する新作映像。それまでは1995年の開館にあわせて制作した映像を繰り返し上映していたため、新作は18年ぶり。ほとんど映像化されていない箱根固有の動植物を2011・2012年度に撮影した
相模原市立相模川ふれあい科学館【神奈川県相模原市】 2014.03
施設の愛称を「相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみほら」にしてリニューアルオープン。開館から25年が経過し、施設の老朽化、展示の旧態化などが課題となっていたため、「親しむ・学ぶ・楽しむ」を施設コンセプトとして、2012年度から2013年度にかけて再整備工事を実施。「川・生命・人のつながり」をテーマに新たな展示アイテムに更新。生物水槽など展示アイテムの数はそれまでの15から倍以上の39に増やした。ドーナツ型の「坂道お魚観察水槽」を新設。ヤマメやモクズガニなどが遊上する様子を間近に観察することができるよう。全長40mの巨大水槽「流れのアクアリウム」はリニューアルされ、ダム湖も設けて相模川の upstream から河口口までを表現。それぞれの流域にすむ魚類約30種類を展示している。さらに、コンピューターグラフィックス（CG）シアターを新設。相模川の中を表現したグラフィックパネルを3Dスコープでのぞくと、その生き物が動きだして体のつくりなどを学べる。タブレット端末を使い幼児でも楽しめる「お魚めりえ」も新たに設けた。正面入口の両側にはデッキテラスを設け、給排水や空調、電気設備なども更新した
新江ノ島水族館【神奈川県藤沢市】 2013.07
「クラゲファンタジーホール」をリニューアル。スペースを2倍に広げ、中心にクラゲがすみ惑星をイメージした球形水槽「クラゲプラネット（海月の惑星）」を新設。展示するクラゲの種類も従来の3倍の50種約2000匹に増やした。ホールは癒やし効果を高めるため、丸みを帯びた形にリニューアル。新展示コーナーも設置。クラゲの美しさを楽しむ「癒しの展示」と、不思議な生態を学術的な側面から分かりやすく紹介する「学びの展示」をそれぞれ独立させた。飼育するクラゲ33種の生態をスタッフが解説する「クラゲサイエンス」が開設
三菱みなとみらい技術館【神奈川県横浜市】 2014.02
体験展示コーナー「トライアルスクエア」をリニューアル。月面資源採掘船の開発に挑戦するプログラム「スペース・プロジェクト」を開始。3Dプリンターと設計体験を組み合わせたプログラム。2020年1月で夢の館物が見えられ、資源採掘船「ドデカトン」を設計するという設定。12人が同時に参加する「ミッション・ラボ」では、エンジンやコックピット、操縦ローラーなどのパーツの設計を分担して担当。完成後は機体を操って、月面での資源採掘をする。同館が事前に3Dプリンターで作った「ドデカトロン」の700分の1模型が記念品としてもらえる。もう一つの「カスタム・ラボ」は1人で専用端末を操り、ドデカトロンを設計する。完成した機体は3Dプリンターに出力され、1週間前後で郵送される
横浜こども科学館「はまぎん こども宇宙科学館」【神奈川県横浜市】 2013.07・2014.02
2013年7月、特別展示室を移設オープン。教室・工房を1階に移し、特別展示室がB2階に移動。面積は2倍になり、高さも吹き抜け箇所は3m以上高くなった。2014年2月、宇宙船操縦士のミッションを子供たちが疑似体験できる「スペース・シミュレーター」を常設オープン（5階）。開館30周年を記念して、施設の命名権を持つ株式会社横浜銀行が寄贈した。「ミッション」には、「宇宙ステーションにドッキングせよ」「人工衛星を回収せよ」「地球へ帰還せよ」の難易度の異なる3つを設定
横浜市電保存館（トラムポート）【神奈川県横浜市】 2013.07
開館40周年を記念してリニューアルを実施。保存されている市電の一部を1950年前後のカラーに塗り替え、線路敷きの石畳や停留所の標識なども展示。路面電車が走った横浜の街をしのばせる内容となっている。目玉は、薄茶色とクリーム色、通称「コービーブラウン」の市電。54年頃からごく短期間、2両にだけ施された希少な色合いを、ほぼ同型の1510号に復刻した。大きな車体が特徴の1311号は、淡い水色に白を組み合わせた47年当時の色に変わった。館内は、壁面が白く塗られイメージを一新。車両の外組みには「ヴィオラ靉クリーム」「コショウはコーエキ」「鳥内のハマケイ」といった広告も掲げられ、時代の雰囲気が再現された
よこはま動物園（ズーラシア）【神奈川県横浜市】 2013.04・2013.09
2013年4月、新エリア「アフリカのサバンナ」の一部がオープン。1.6haの敷地に23種83点の動物が展示され、バードショーやフタコブラクダの背中に乗れる「ラクダライド」など動物を直接体感できるゾーンになった。オナガザルの一種・アビシニアクロプスはケージの中を来場者が通り抜けられるように展示され、世界最小のヤギ・ビグミーゴートと直接触れ合うこともできる。バードショー広場では、ダルマワシやコンゴウインコの飛ぶ姿を間近で見ることができる。2013年9月、園内のアマゾンセンターを改修し、新しい展示場が完成。この展示場は、人工哺育となった動物や、動物にとって暑さや寒さが厳しい時期の、臨時的な展示場としての活用を目的に設置された
横浜みなと博物館【神奈川県横浜市】 2013.08
同館1階に「ピッツァ&グリル横浜パラダイス」がオープン。同店は、ナポリスタイルの窯焼きピッツァを提供するイタリアンレストラン。店舗面積は約80㎡で、店内の席数は20席。運営は株式会社マリンツーリスト
吉野宿ふじや【神奈川県相模原市】 2013.07
国道20号改良工事（歩道拡幅）に伴う曳家による移設及び改修が完了。2012年11月から休館して、建物を道路から3m下げる移設工事を実施。ふじやは江戸時代の旅館「藤家」の遺構。2014年4月1日には吉野宿の様子を伝える唯一の町家遺構として市登録文化財に登録された。相模原市立博物館と地元NPO法人「ふじの里山くらぶ」が協働事業として運営している
糸魚川市長者屋考古古館【新潟県糸魚川市】 2013.04
展示のリニューアルを実施。展示資料数をそれまでの1.5倍の約1,200点に増やし、縄文風の衣装を試着できるコーナーも設置。能生地域で出土したヒスイ加工品などを新たに加えた。壁面を利用した立体的な展示や新たに制作した映像などにより、長者屋原遺跡をはじめとする市内遺跡の特徴をわかりやすく解説している
清水園【新潟県新発田市】 2014.02
清水園内に「堀邸安兵衛伝承館」がオープン。郷土資料館の一角に、新発田市出身で忠臣蔵の赤穂四十七士の一人、堀邸安兵衛武庫に関する資料を展示する「堀邸安兵衛伝承館」を開設。堀邸安兵衛を顕彰する「武庫会」や新発田市、個人が所有する安兵衛ゆかりの品々約30点を展示。伝承館は、市内外に残る安兵衛の資料を集め、顕彰する場にして清水園を管理する北方文化博物館が開設した

上越科学館 [新潟県上越市] 2014.03
第二展示室Eゾーン「くらし・環境・エネルギー」がオープン。Eゾーンを全面リニューアルして、環境と最新のエネルギー事情について体験型の展示物や実験コーナーなどを通して学習できる空間に整備した。海底の天然ガスの探査や掘削の様子はコンピューターグラフィックス(CG)映像で再現。国際石油開発帝石(東京)の「直江津LNG(液化天然ガス)基地」や中部電力上越火力発電所など、市内のエネルギー施設の概要も豊富な写真や図解パネルで解説。最新技術を使って燃料の使用量を減らし、二酸化炭素の排出量削減に結びつけている仕組みが分かるようになっている。自然エネルギーを学ぶコーナーでは、子どもたちがコントローラーを振ったり足踏みをしたりして、発電の仕組みを体験。ライトを操作してソーラーカーの速さを競うゲームも設けられている
新潟市水族館 マリンピア日本海 [新潟県新潟市] 2013.07
2012年9月から休館して改修工事を行っていた同館がリニューアルオープン。里山や潟など新潟の自然を再現した屋外展示を新設するとともに、「新潟から世界の海へ」をテーマに生物の展示方法を一新した。屋外には、海から内陸に広がる同市の自然環境をモデルに、砂丘湖、小川、田んぼなどを再現した「にいがたフィールド」(約3,380㎡)を新設。景観だけでなく、そこに住む生物や植物の観察も楽しむことができる。また、館内の「日本海大水槽」には新たにのぞき窓を設置。照明や水温を入れ替え、展示する魚類の種類を増やした。サンゴや砂浜などさまざまな海岸線の風景を再現した7つの水槽「潮風の風景」、生き物の観察・実験ができる「アクアラボ」、広くなった「ペンギン海岸」、欄をガラスに変更して見やすくなった「マリンサファリ」なども整備した。リニューアルに伴い、体験しながら生物の生態系を学べる学習機能の設備も充実させた。来場者が手で触れて見て学べる「ハンズオン展示」を館内約30カ所に設置。職員のアイデアから生まれたという、コブダイの幼魚と成魚の体の変化を楽しめる「パラパラ魚漫画」や、クイズを楽しみながら生物の生態を知ることのできるコーナーも設けられた。また、来場者が利用しやすいように、段差の解消やエレベーターの増設のほか、ドルフィンスタジアムには車いす席、視覚通路上には膜屋根を新設した
新潟市新津鉄道資料館 [新潟県新潟市] 2013.06
新津鉄道資料館のサテライト施設「新津駅中サテライト ていしゃば」と「ポケットパーク」がオープン。JR新津駅東口階段下にある「ていしゃば」では、所蔵資料の一部を展示しているほか、資料館への交通アクセスの紹介やレンタサイクルの貸し出し、商店街や秋葉区に関する情報発信などを行っている。JR新津駅前の展示施設「ポケットパーク」では、かつて鉄道資料館の屋外に展示されていた鉄道関連資料を移設・展示している
山口庭園・資料館 [新潟県長岡市] 2013.06
郷土資料館「敬山閣」がリニューアルオープン。2012年5月から改築を実施。新資料館は土蔵を模した鉄筋コンクリート造3階建て。内外装には「敬山閣」を運営している公益財団法人山口育英奨学会の山林から伐り出した杉材を使用。同館は、小国郷で大庄屋格を務めていた山口家代々の帳面や調度品など地主の生活様式を今に伝えている。地元の産業振興に尽力した元県議会議長の山口権三郎氏の功績も紹介
富山県 [立山博物館] [富山県立山町] 2013.07
新施設「山岳集古未来館」がオープン。歴史的に形成された芦峰寺の山岳文化や、明治以降の立山・黒部をはじめとする日本の登山史・登山文化を紹介している。鉄筋コンクリート2階建て延床面積313㎡。1階展示室は、加賀藩2代藩主の前田利長が芦峰寺に寄進したとされる神輿などを展示した「芦峰寺の歴史的景観」ゾーンと、写真や道具などで登山史をとらえる「立山・黒部の登山史点描」ゾーンで構成。2階収蔵庫には文献や映像フィルム、山岳雑誌など計約8,000点を保管する。同館の展示館と教養坊の東隣に建設し、各施設との周遊性を高めるために通用門を2カ所設けた。施設は芦峰寺の景観になじむように白壁の土蔵造りになっている
石川県輪島漆芸美術館 [石川県輪島市] 2013.10
常設展示「輪島塗の歴史と文化」を大幅にリニューアル。輪島塗の世界を体験できる内容に更新。それまでの資料や解説に動画を加え、輪島塗を視覚的に体感することが可能になった。漆掻きから加飾までの職人が作業をしている風景の映像コーナーを設置し、さらに触ることのできる工程見本を展示したことで、普段は目にするこのない輪島塗がはかままでの詳細を紹介。また、顕微鏡を用いて古い輪島塗の断面を拡大し、下地や布着せの様子を観察することができるコーナーも設置。ほかにも、日本の漆文化の歴史の流れを写真で追った解説や、輪島の漆文化を再現したコーナーなど、従来の常設展示からより進化した内容にリニューアルを図った
市ノ瀬ビクターセンター [石川県白山市] 2013.06
開館から10年以上が経過し、国内外を含む幅広い利用者への対応や、白山の魅力をより発信していくため、展示内容の改修を実施。白山の上部のライブカメラ映像や日々の自然情報の提供など、白山の魅力を伝えるために情報提供機能の強化を図った
金沢市立中村記念美術館 [石川県金沢市] 2014.03
2カ月間の改築工事を終えてリニューアルオープン。ロビー(1階)に美術館紹介コーナーを設けて、パネルによって中村榮俊氏、館の概要、年表、付属施設の概要を紹介。展示室(2階)には、作品を四方から見ることができるフロアケースを7台増設。さらに1階および展示室(2階)のクロスを落着いた明るいベージュで統一するなど、館内のクロスの全面張替を行い、雰囲気を一新。食器や茶器など地元作家の作品を販売する等でグッズ販売コーナー(1階)の充実化を図り、呈茶席(1階)で陶芸家の茶碗を使うことができる新サービスを実施
室生屋星記念館 [石川県金沢市] 2014.03
常設展示室の全面改築を実施。新設した「音で聴く星屋の世界」では、タッチパネルで「声をきく」「朗読をきく」「歌をきく」「歌をきく」から好きな音声を選んで聴くことができる。2階にはこのタッチパネルを2台新設。1階の展示ケースは6台から10台に増設。子どもも楽しめる大型の絵本を製作するなど、閲覧図書の実用化も図った。ミュージアムショップは従来より広く見やすくなり、グッズ販売の実用も図っている
越前市武生公会堂記念館 [福井県越前市] 2013.09
2012年12月から休館して耐震補強工事を行い、リニューアルオープン。耐震性の問題から1950年から、6階部分に増設された火の見櫓を撤去。1階展示室内には耐震壁を新設した。玄関からエントランスにつながる階段の横にスロープを設けるなど、バリアフリー化も図った。1階トイレは洋式に改修。2階展示室には可動式のパネルを導入し、展示内容に応じて部屋を区切って使えるようにした。それまで越前国府の資料を常設展示する施設がなかったため、1階展示室1で越前国府に関する常設展示を展開
越前松島水族館 [福井県坂井市] 2014.03
開館55周年を記念して、フンボルトペンギンの飼育・展示施設「ぺんぎんらんど」をオープン。従来の5倍の大きさのプールのほか、ハート形の空中水槽を備え、水中を泳ぐペンギンのさまざまな姿が楽しめる。「ぺんぎんらんど」は約200㎡。フンボルトペンギンが息するチリからペルーにかけての太平洋沿岸の環境を模した砂地と、縦13m、横5m、水深2mのプールを設け、フンボルトペンギン27羽を飼育・展示している。砂地には南米の生態環境に似せた樹脂製のサボテン6本や果実九つを設け、ペンギンが羽織いしたり睡眠をとる様子などを見ることができる。プールは正面のほかに横にも窓を設け、ペンギンが水面を泳ぐ姿や水中深く潜る姿が観察できる。また、地上から高さ2.4mに直径5mの亚克力製水槽を併設し、砂地からペンギンが行き来できるようにした。水槽は縦90cm、水深50cmのハート形で1周18m。来場者は泳ぐペンギンを下から観賞することができる

福井県立恐竜博物館 [福井県勝山市] 2013.04
レストランの改築を実施。エントランスホール側に入口を設け、客の導線をスムーズにした。新店舗の名前は、恐竜を表す古代ギリシャ語にちなんだ「Cafe & Restaurant Dino(カフェアンド レストラン ディノ)」。恐竜や福井にちなんだメニューも強化した。ガラス張りの壁面に山並みと恐竜のシルエットを配し、柱を赤くするなど、内装は明るい雰囲気へ一新。2人用テーブルを使ってライオットの自由度を高め、客席数を20席増の125席にした。フードメニューは子ども向けメニューも充実させた
岩殿山ふれあいの館 [山梨県大月市] 2013.04
1階を大月市出身の山岳写真家・白旗史朗氏の写真館としてリニューアルオープン。白旗史朗氏が撮影した、秀麗富嶽十二景から眺めた四季折々の富士山の写真を中心に展示。また、今では見ることが出来ない大月市の昔の写真も展示
山梨県笛吹川フルーツ公園 [山梨県山梨市] 2013.04
「わんぱくドーム(旧トロピカル温室)」と「くだもの館」をリニューアル。ドーム内には遊具や芝生広場、くだもの館にはイベントスペースを整備。ドームは、雨でも遊べる広場や遊具を整備することにして、2012年11月から工事を実施。ドーム内には富士山をイメージしたネットを使った遊具と芝生広場を整備。ブドウ棚やバラを配し、名称をトロピカル温室(それまでは熱帯、亜熱帯の植物を展示していた)からわんぱくドームに変えた。くだもの館は地下の展示スペースの一部を改修。果物の歴史や文化を学べる展示ゾーンの大部分を残しつつ、イベントスペースとおむつ交換や授乳などができるベビー休憩室を新たに設けた
山梨平和ミュージアム 一石橋湛山記念館ー [山梨県甲府市] 2013.11
2014年に生誕130年を迎える山梨ゆかりの言論人・政治家石橋湛山に関する常設展示「湛山の生涯と思想」をリニューアル。それまでの展示パネルを8割方刷新、見やすく修正するとともに、戦時下、戦後の活動を大幅に補充した。リニューアルに伴い、新たに1972年の日中国交正常化の礎を築いた湛山の活動をパネルで解説。また、言論人として活動していた戦時中、暗に軍部や戦争を批判した論文も加えた
安曇野市豊科郷土博物館 [長野県安曇野市] 2014.03
開館以来35年ぶりに常設展示をリニューアル。新しい常設展示は、それまでの豊科地域を中心とした資料から全地域の資料を扱うようにして、「安曇野をめぐる水と私たちのくらし」をテーマに安曇野らしい景観などを支える堰や地下水などの関わりと歴史を学べるようになっている。安曇野を巡る水にまつわる歴史や暮らしをテーマにしたストーリー性のある展示に改裝。見るだけでなく、触れることもでき、それぞれの時代、人々の暮らしが、より身近に感じられるようになった。水鉄砲など水遊びの体験コーナーや市内散策の手助けとなる「インフォメーションコーナー」(「安曇野の見どころシート」を用意)も設置している
安曇野市豊科近代美術館 [長野県安曇野市] 2013.09
増築棟の建設や本館の耐震補強工事を行って、リニューアルオープン。増築棟は鉄骨2階建てで、1階には展示品を屋外に出すことなく、トラックなどに直接積み込むことができる「トラックヤード」と、隣接して収蔵庫を新設。2階には、展示用壁面ガラスケースを設置した大展示室を設けた。市の基幹美術館として、隣接する豊科交流学習センターきほうの2階ホールと合わせることで、大規模な展覧会の開催が可能となった
飯田市立動物園 [長野県飯田市] 2013.05
シカ・カモシカ舎を改修。南アルプスの生息地を再現したニホンカモシカの岩場とニホンジカの草地を公開。南アルプスを背景にすることで、野生の生活をイメージしやすくなった。新たな名称は「南アルプスに生きる・カモシカの岩場、シカの草地」。シカ・カモシカ舎ではそれまで、来園者は南アルプスに背を向ける形で見学していた。今回の改修ではさらに、おりを取り払い、シカには草地、カモシカには急峻な岩場を配した。特にカモシカの岩場は、背景の眼下にある住宅街やカモシカの寝室が来園者の視線に入らないよう、岩場を高さ約3mにして、来園者が動物を見上げる設計とした。また、山中の雰囲気味わえるよう、飲食の手前の欄を撤去して覆い隠した。さらにシカやカモシカが逃げ出さないよう、欄まで幅2.5mの堀をつくった。展示面積は計245㎡。同園では、2009年度から展示改革の取り組みを始めている
軽井沢千住博美術館 [長野県軽井沢町] 2013.06
新たな展示空間「The Fall room」を増築オープン。日本を代表する美術作家・千住博氏が滝を描き、1995年のヴェネツィア・ビエンナーレで名誉賞を受賞した代表作「The Fall」を常設展示するスペースとして増築。「地下宮殿」をテーマに設計。「The Fall」の展示空間は、曲線を多用した地下のような空間としてデザイン。トンネル状の渡り廊下を通してたどり着く暗い展示室には「The Fall」が展示され、作品の前面に水盤を張ることで、作品と展示室が一体となった空間を創出している。鉄筋コンクリート平屋建て326㎡。屋根はノコギリ状に折り曲った断面とし、屋根自体を梁とすることで大スパンの展示空間を実現。景観としても周囲の建物や山並みと連続するように配慮されている
北澤美術館 [長野県諏訪市] 2013.04
開館30周年を迎え、本館の展示室を2倍の広さに拡張する改築工事を終えて、4カ月半ぶりにリニューアルオープン。山梨県内の分館や諏訪市内の新館に展示していた作品も本館に集約。所蔵するガレの第一級の作品を一堂に集めて公開できるようになった。同館は、隣接地に床全面免震装置付き収蔵庫棟を新築し、従来の収蔵庫を展示スペースに改修するなどして、鑑賞スペースを広げた
北野美術館 [長野県長野市] 2013.04
開館45周年を記念して茶室「光庵」を新設。茶室は広さ18㎡余で、日本庭園に面した本館1階の展示室の一角に設置。茶会用に貸し出すほか、来館者に茶を振る舞う場所としても利用している
旧制高等学校記念館 [長野県松本市] 2013.04
開館20周年を迎え、常設展示を一新。旧制高校廃止から60年余が経ち、旧制高校を知らない世代が増えたため、より分かりやすい内容とした。体験型も意識し、全国の旧制高校の寮歌約200曲を聴くことができるコーナーを設けた。寮歌は全国の旧制高校関係者に提供を呼び掛けた音源を集めた。入館者はタッチパネル画面を操作し、希望する曲を探して聴くことができる。そのほかの展示は「写真は大きく、文章は極力短く」を基本にした。ともに旧制松本高校出身の作家北杜夫と辻邦生が並ぶ大きな写真を掲げ、北アルプスの模型に同校山岳部が登った前穂高岳への「松高邦生」を示した。学生姿の切り抜き人形による解説板、パンカラ服の着用体験コーナー、映像シアターなども配置した
市立大町山岳博物館 [長野県大町市] 2014.03
創立60周年を記念して、全館リニューアルオープン。展示内容も大幅に入れ替えた。「北アルプスの自然と人」を展示のメインテーマに据え、北アルプスの大自然を一望できるほか、生息する動植物や、山と人との関わりを学べる施設になった。目玉は、3階の展望ラウンジからの大パノラマ。目の前に広がる北アルプスや後立山連峰の雄大な景色をソファでくつろぎながら堪能することができる。床には約3m四方の地図が敷かれ、位置関係もわかりやすくなった。2階では地史や生物の展示を実施。後立山連峰が160万年前から数十万かけて回転・隆起してきていたことが紹介され、実際の岩石にも触れられる。また、低山帯や高山帯などの生息地に応じて生物の剥製が約140体(ライチョウ類だけでも20体)並び、ニホンカモシカの親子が寄り添ったり、ニホンザルが毛繕いする動きも表現されている。近代登山の展示が中心だった1階は、縄文時代から続く山と人々との関わりを時代の変遷とともに学べるようになった。同館は、新館を建てた1982年からはほぼ10年ごとに改修し、展示内容を变えている。展示改裝以外に、施設の耐震工事を実施したほか、駐車場からの階段には手すりを設け、玄関も自動ドアに改修した。ミュージアムカフェ・ショップもリニューアル。トイレは1階が女子専用、2階が男子専用となり広く使いやすくなった。多目的トイレと授乳室も設置した

蓼科アミューズメント水族館〔長野県茅野市〕2013.04 犬を遊ばせるドッグランとアートギャラリーを新設。来館者の要望を受け、約160㎡の屋根付きテラスに全天候型ドッグランを整備。一部分を木製フェンスで囲い、犬がコンクリートの床で爪を傷めないようウッドチップを敷き詰めた。以前は土産販売コーナーだった2階の約170㎡は絵画の展示スペースに改装。軽食を食べたり休憩できる場所としてテーブルや椅子も配備した。水族館の展示も30種約500匹を追加して充実させた
遠山郷土館 (和田城) 〔長野県飯田市〕2013.04 民俗関係の資料を充実させて改装し、リニューアルオープン。南信濃地区の考古資料や鎌倉時代からの遠山郷の歴史、国重要無形民俗文化財「遠山の霜月祭り」の紹介を置いて。尾の島館遺跡から出土した縄文時代早期の土器片や石器、制作年代が鎌倉・南北朝時代までさかのぼる古代面、遠山郷に残る寺社に掲げられていた鰐口、陶器の狛犬など、貴重な資料を新たに紹介。地元在住の童画家・北島新平氏の作品や面の展示コーナーも充実した。今回の改装は、文化財を各神社などで管理するのが難しくなる中、同館を拠点に散逸や紛失を防ぐねらいもある
下呂温泉合掌村〔岐阜県下呂市〕2013.04・2013.07 2013年4月、円空仏の展示施設「円空館」がオープン。合掌村内に20年間開設していた「狛犬博物館」の狛犬の返済期限が来たため、別の施設で保管していた市内の神社や個人が所有する円空仏29体を移し、同博物館をリニューアルした。館内は仏像の背面に書かれた円空の字やのみの跡もつぶさに分かるよう、全ての仏像が360度から見えるように展示されている。2013年7月、体験施設「飛騨工房」がリニューアルオープン。それまで別々の棟にあった陶器の絵付けや陶芸、絵すきで体験場所を1カ所に集約。年中無休で楽しめる体験施設として生まれ変わった。それまで体験すきの施設だった合掌造り家屋を改装。2階部分も45人までの団体客に対応できるように整備。売店も併設した。陶器の絵付けの施設だった合掌家屋は休憩所として活用
関市円空館〔岐阜県関市〕2014.03 開館10周年を機に常設展示をリニューアル。展示替えを行い、円空仏4体を新たに展示に加えた。狛犬とカラス天狗という珍しい像で、市内の神社などから寄託された。新たに加わった4体を含め、計35体の円空仏を見ることができ。[小瀬鶏飼]のコーナーを新設して、鶏匠や鶏飼の道具などを紹介
久能山東照宮博物館〔静岡県静岡市〕2013.10 2013年2月から閉館して改修工事を行い、リニューアルオープン。館内の照明や空調設備を一新し、展示に最適な環境を整えた。展示室の照明を蛍光灯からLEDライトに替え、赤外線や紫外線による文化財の色あせを防げるようになった。室温や湿度も季節ごとに最適な状態に保つことができる。保存のために公開を控えていた貴重な甲冑や漆器などの展示が可能になったほか、室内が明るくなり細部まで鮮明に見ることができる
佐野美術館〔静岡県三島市〕2013.04 1966年の開館以来初の大規模改修を行い、リニューアルオープン。2012年11月に収蔵庫が完成したため、それまでの収蔵スペースを常設展示室に改修し、人気の高い日本刀などを展示した。主な改修点は、黒い柱などを全て塗り替えたことや、白を基調にした明るい外観・内装に変更、ミュージアムショップを拡大、日本刀などの所蔵品を展示する常設展示室を新設、約2,500点の所蔵品を保管する収蔵庫を新設など。照明や美術品・施設管理には最新技術を取り入れた
静岡科学館 (る・く・る) 〔静岡県静岡市〕2014.03 10階「おどろきゾーン」の一部をリニューアル。新たに磁石やエネルギーについて楽しく遊びながら学べる展示物を導入。S極とN極が次々と切り替わる壁面を、磁石付きのグローブを使って渡るアスレチック「はらはらウォール」や、すべる人の持つエネルギーによって、周りを囲むリングの輝き方が変わるすべり台「エナジーすべり台」、さらに、磁石や電氣を使った道具の仕組みなどを、自分で調べてふしぎを解き明かす情報テーブル「科学の魔法発見ラボ」を設置
静岡市立日本平動物園〔静岡県静岡市〕2013.04 6年かけて再整備を行ってきた同園がグランドオープン。新たに「オランウータン館」や「草食獣舎」、体験学習施設「ふしぎな森の城」の3施設を開設。オランウータン館は2階建てで、屋外展示場を取り囲むように建設。展示場は生息地のボルネオの密林をイメージし、5m以上の高さに木やロープをめぐらせた。各所に観察場所があり、オランウータンが野生と同様に木の上で暮らし、ぶら下って空中を移動する姿を上下左右から眺めることができる。4つの寝室のほか、産室も設置。草食獣舎は3つの飼育舎が一つになった構造。アフリカの動物ババリーシープと、インドなどに生息するアクシスガ、オーストラリアなどに生息するワラビーの3種類を飼育。ババリーシープ舎は山岳地帯の岩場を再現するなど、種ごとの特性を生かせる構造にしている。旧「は虫類館」を改修した体験学習施設「ふしぎな森の城」は、レッサーパンダやワラビーなど8種類の着ぐるみを着て遊べる場所や、飼育員の仕事場を再現した「リトルバックヤード」を設けた。3施設の完成により、6年かけて老朽化施設を建て替え、最新の展示方法を取り入れた再整備事業は完了した
下田海中水族館〔静岡県下田市〕2013.04 常設のクラゲ展示室「クラリウム」がオープン。音楽と香りとクラゲがコラボレーションした癒やしの空間が来場者を魅了する。同館内のマリンスタジアム入口にあった特別展示室を全面的に改装し、癒やし効果のあるクラゲに特化した空間をつくり出した。7基の水槽にミズクラゲ、シロクラゲ、カミクラゲ、タコクラゲ、アカクラゲ、カブトクラゲ、サカサクラゲをそれぞれ展示。季節ごとにクラゲの種類を変えている。クラリウム内ではクラゲの世界を音で表現したヒーリング音楽「ジュリーフィッシュ」と、草原をイメージした「アロバンス」の香りが心地よい空間を演出。また、クラゲを発光ダイオード(LED)ライトで照らし、幻想的な雰囲気を楽し出した。バックヤード施設「魚ぎょラボ」もリニューアル。魚ぎょラボは魚の研究や治療などを行うための施設。200リットル〜20トンまでの大小の予備水槽が20基設置され、生物の傷を癒やしたり飼いに慣らしたりする。下田を代表する魚のキンメダイにスポットを当てた展示スペースも併設した
土肥金山 黄金館〔静岡県伊豆市〕2013.07 開設25周年を迎え、観光坑道と資料館の一部をリニューアル。子どもにも分かりやすく、親しみやすい施設を目指し、施設の一部を改装。観光坑道は延長約300m。電動人形によって江戸時代の金山採掘の模様を再現している。今回の改装では、坑道内にある山神社「黄金の鳥居」の手前2カ所に冠木門を設置し、照明効果とあわせてパワースポットの神秘性を強調。資料館「黄金館」では、江戸時代の様子や金ができるまでの過程を再現したジオラマを一新。アナウンス中の人形にスポットライトを当て、ドラマチックで分かりやすい演出を施した
東海大学自然史博物館〔静岡県静岡市〕2013.07 「静岡県の自然」と題した展示コーナーを1階に新設。富士山・南アルプスから駿河湾まで標高差が大きい静岡県の自然の特徴を、標本や再現風景を交えて紹介。それまで化石展示や子供向け広場にしていたスペースに新コーナーを設置。富士山の生い立ち、南アルプスの樹木、人と自然が共存する里山の環境、雑木林の生態系などを学べるブースを連ね、チョウ、樹木、化石を中心に450点の標本を展示。雑木林のブースでは、クヌギなどの樹木に、ニホンカシとツクシワグマの剥製を組み合わせた。安倍川と興津川では河原にある石の種類・構成が違うこともデータで示した。各ブースは主に小学生と家族向けに解説をつけている

浜松科学館〔静岡県浜松市〕2014.03 プラネタリウムがリニューアルオープン。デジタル式プラネタリウムを最新システム「SKYMAX DS II -R2」に更新。家庭用テレビの最高画質である「4K」テレビと同水準の超高精細画質を、500mを超える全天周スクリーンへ投影する。以前から使用している光学式プラネタリウム「インフィニウムS」と今回新しくなった全天周デジタル式プラネタリウム「SKYMAX DS II -R2」の2つのシステムが完全に統合されたものが「ジュミニスターⅢ」。光学式プラネタリウムと合わせることで、満天の星が降りそぐようなリアルな星空と全天周ならではのダイナミックで臨場感あふれる映像とのコラボレーションを楽しむことができる
ベルナール・ビュフェ美術館〔静岡県長泉町〕2013.04・2013.07 2013年4月、開館40周年に合わせて行った改修工事を完了。バリアフリーに配慮して展示空間を一新。新館の吹き抜けの部分に床を設け、2階を展示室、1階を収蔵庫と事務室に改修した。新館2階と同じ高さにある本館から段差なく移動できるようになった。展示室の内装は白を基調に、赤や水色の壁も配して、より明るい印象に変えた。併設のミュージアムショップとカフェは店舗を拡大。2013年7月、隣接の子ども向けの美術館「ビュフェ子ども美術館」がリニューアルオープン。子ども美術館は木をテーマに全面改装した。親子で楽しめる絵本図書館を拡充し、函南町の造形作家・杉山明博氏が制作した触って楽しめる木の造形作品も並べている
三島市郷土資料館〔静岡県三島市〕2013.11 耐震補強、改修工事が完了して、リニューアルオープン。バリアフリーに配慮し、展示も一新した。老朽化で耐震補強が必要になったことなどから改修を実施。耐震補強に加え、エレベーターとスロープ、非常用階段、多目的トイレを新設するとともに、展示は体験コーナーを充実させた。昭和初期頃の農家を再現したスペースでは実際に道具に触れられるほか、浮世絵のバズルを設置するなど、体験しながら学習できるように工夫した
蒲郡市竹島水族館〔愛知県蒲郡市〕2014.03 館内中央の「2段水槽」を新2段サンゴ水槽「キラキラたけすいりフ」改称してリニューアル。「貴重甲殻類標本コレクション」「テーブル型水槽」など、新しい展示を設置。新展示生物も充実
トヨタ産業技術記念館〔愛知県名古屋市〕2014.01 自動車館の創業ゾーンをリニューアルオープン。トヨタ自動車創業者の豊田喜一郎氏の生誕120周年を記念して、その軌跡を「決意」「挑戦」「邁進」の3ゾーンに分けて、喜一郎氏の語録も紹介。「決意」では、1921年に紡織技術を学ぶため、欧米を視察した喜一郎氏が自動車の普及に驚いたことが自動車製造の原点となったことや、1931年に小型ガソリンエンジンを試作した時の様子を展示。「挑戦」では鍛造の様子を再現し、「邁進」ではトヨタの生産方式「ジャスト・イン・タイム」の思想を紹介している
名古屋科学館〔愛知県名古屋市〕2014.03 生命館の展示物をリニューアル。「DNAってなんだろう?」では、地球上の全ての生物の生命活動に重要な役割を果たしているDNA(デオキシリボ核酸)の構造とはたらきについて学ぶことができる。同展示は、「DNAの正体」「クイズDNA」の2つで構成。「DNAの正体」では、天井に届く大きな模型がシンプルで美しいDNAの分子構造を表している。模型に続くグラフィック映像ではDNAのコピー(DNA複製)の様子を紹介する。「クイズDNA」では、DNAの働きをクイズを楽しみながら紹介。一方、「チャレンジ! DNA」という展示では、「みつける〜突然変異」「しらべる〜DNA鑑定」「くみかえる〜GFPメダカ」の3つのブースと1つのビック展示が設置されている。DNAに関する実験を疑似体験することにより、DNAの仕組みや応用技術を紹介
名古屋市東山動植物園〔愛知県名古屋市〕2013.04・2013.09・2013.10 2013年4月、カフェと売店が入った商業施設「ひがしやまバレット上池」が新たにオープン。カフェは150席あり、隣の上池を眺められるテラス席も設置。売店は、オリジナルのハンカチやTシャツなど、1100種類の土産物が揃っている。2013年9月、多目的レストラン「ガーデンテラス東山」がオープン。フランス料理を中心に、イタリア料理や創作料理も提供。結婚式や披露宴、各種パーティー会場としても利用できる。「自然との融合」をテーマに、鉄筋3階建ての本館と洋式用のチャペルのある別館からなり、延床面積は1700㎡。本館にはレストランのほか、披露宴やパーティーなどで使う100人収容のホールや控室もある。これらの施設の整備は、市が進める「東山動植物園再生プラン」の一環として取り組んだ。2013年10月、国内最大級の広さとなる新たなアジアゾウ舎「ゾージアム」が完成。生き生きと暮らすアジアゾウを野生の環境に近い状態で観察できるよう工夫した。新ゾウ舎は約3350㎡で、ゾウ舎と運動場、屋内観覧所からなる。それまでのゾウ舎より4.5倍広くなった。群れて行動する自然界に近い状態で飼育を目指している。運動場のあちこちに餌場を作り、ゾウが餌を探すように工夫した。スリランカの川をイメージしたプールや泥遊びの場所、腹やお尻をこすりつけるための棒も設けた。屋内の展示コーナーでは、戦後、国内で生き残ったアジアゾウを見ようと子供たちが全国から集まった「ゾウ列車」など、東山動物園の歴史や飼育員の仕事を紹介。アジアゾウの特徴や能力を学べるコーナーでは、実物大の耳や鼻、足の立体模型が展示され、映像と合わせて理解を深めることができる。2階ではアジアゾウの故郷スリランカについて紹介。室内観覧所からは運動場が一望できる
おかげ座 神話の館 (旧：おかげ座) 〔三重県伊勢市〕2013.07 おかげ横丁の「おかげ座」が、伊勢神宮の第62回式年遷宮を記念して、全面改修を行い、神話の館としてオープン。神話の世界を映像と語りで伝える「神話シアター」と、原初をイメージした「神話の森」で構成。神話シアターは、日本の国土と神々が生まれる「国生み」から、天照大神の命を受けた孫が天上から地上に降りたとされる「天孫降臨」まで、日本神話のあらましをアニメーションを使って17分で紹介。神話の森では、乱暴をうけて岩戸に隠れてしまった天照大神を出そうと踊る神々など6場面を約50体の和紙人形で表現
だんじり会館〔三重県伊賀市〕2014.03 改修工事を行っていた同館がリニューアルオープン。大型スクリーンなど映写機器を一新。「上野天神祭」や四季折々の伊賀地域の魅力を臨場感あふれる映像と音響で発信する。伊賀地域は松尾芭蕉の生誕地でもあることから、新しい映像は芭蕉が伊賀の四季や風土を通して上野天神祭を紹介するストーリー。2階AVコーナーでは、「いが春夏秋冬」と題して、各地域を代表する行事を紹介
鳥羽水族館〔三重県鳥羽市〕2013.07 国内生態が風変わりな水生生物を展示する常設コーナー「へんな生きもの研究所」を設置。姿や生息地となるタンゴムシの仲間「ニューカドニアオオクムシ」など55種300点が並ぶ。明るさを抑えた照明の下、水槽を無機質に連続して並べたほか、むきだしの柱、学校の理科室にありそうな流し台、生物標本や顕微鏡を置いた棚などで雰囲気を出している。各水槽には特徴をユーモアたっぷりに紹介するプレートも置かれ、楽しく観賞できる工夫も凝らしている
ヤンマーミュージアム〔滋賀県長浜市〕2014.03 開館1周年を記念して、同社の研究や開発の取り組みを紹介する「研究・開発ゾーン」を新たに加えた。最新鋭の建設機械シミュレーションシステムを日本で初めて導入。シミュレーターは、スウェーデン製でヤンマーの8トンクラスの油圧式ショベルカーを使った穴埋め作業と溝掘り作業のデータが入っている。椅子に座り、両手でレバーを動かし、目の前の55インチのモニターに映る作業現場でシャベルなどを操作する。土やコンクリートに触れた感覚、当たったときの音、衝撃、椅子の傾きなどもリアルに体験できる

京セラファインセラミック館【京都府京都市】2014.03
本社ビル2階にある同館がリニューアル。ドリルで削ったり、バーナーで燃やしたりするなどの実験映像を紹介。金属と比較できる模型を用意し、子供でも製品の特長を理解できるように工夫している。宇宙開発や深海探査など、極限状況で使用される製品例も展示。併設するショールームも改装。従来は事業部ごとに製品を展示していたが、「自動車」通信・ネットワーク」など、産業分野ごとに分類し直し、製品のほか、70型の大型ディスプレイ5台で製品の概要を紹介している
京都市市民防災センター【京都府京都市】2014.03
具体的な防災行動につながるような体験コーナーを整備してリニューアルオープン。同センター2階中央と3階の展示を改装。「防災行動体験コーナー」「出動！！こども消防隊」「消防士に変身」「アンダーパスの危険性」「4Dシアター迫りくる地下街の恐怖」の5ブースを新設
京都市動物園【京都府京都市】2013.04・2013.07
2013年4月、110周年を迎え、キリンやシマウマなど、アフリカのサバンナで暮らす動物を飼育する新エリア「アフリカの草原」がオープン。キリンが餌を食べている様子をガラス越しに真下から見るができるスペースを設けるなど、動物たちを間近に感じてもらえる工夫を凝らしている。キリンが過ごすグラウンドの面積を従来より大幅に広げ、グラウンド西側には、通路に張り出した透明の餌台を設置。2階部分には遊歩道も整備した。遊歩道はキリンの目線とほぼ同じ高さであり、エリア全体が見渡せる。また、中南米やアフリカなどのほ虫類やほ乳類をメーンに展示する「熱帯動物館」がオープン。カピバラやイグアナなど約30種140匹が生息環境を再現した空間に展示。2013年7月、野生鳥獣救護センターの新棟が完成。従来より動物の治療や飼育を行うスペースが広がった。新棟は2階建て。延床面積は以前の倍以上となり、簡単な治療をしたり、ひなを育てたりする「処置・育雛室」も約5倍と広がった
京都大学百周年時計台記念館 歴史展示室【京都府京都市】2013.05
戦後に京都大学に統合された旧制第三高等学校を紹介する展示コーナーが開設。個性を尊重した教育で知られる初代校長・折田彦市の胸像などから、京大の「自由の学風」に受け継がれた3高の気風を伝える。三高資料を管理する財団法人三高自協会などから寄贈を受けて展示
京都府立植物園【京都府京都市】2013.05・2013.06・2013.08
2013年5月、環境省や京都府のレッドデータブックに登録されている絶滅危惧種を集めた「絶滅危惧種園」がオープン。同園で育てた植物の一部を移植した。将来的には200〜300種類を植える方針で、全国でも珍しい絶滅危惧種の「楽園」となる予定。2013年6月、園内の植物を紹介する「ボタニカル・ウィンドウ」が完成。同園北側には、植物園と北山通を仕切る生け垣があったが、「暗い」「圧迫感がある」などの声が寄せられていたため、一部を改修して新設した。高さ4m、幅7.2m、奥行き1.7mで、季節ごとの草花を展示するほか、「ボタニカル・ウィンドウ」越しに園内の植物を見てもらう。2013年8月、夜咲く花を日中に楽しむことのできる「昼夜逆転室（ナイトフラワーガーデン）」がオープン。夜間に照明を当て、日中に暗い空間を作り出すことで、植物を錯覚させて開花させる。園内の観覧温室内に約80㎡の空間を新設。夕方以降に咲く月見草やヨルガオ、サガリバナ、月下美人など約20種約50鉢を展示。室内では虫の音が聞こえ、天井に星空を映し出すなどの工夫も行った。室内の気温を下げて京都や日本、世界の高山植物を展示する「高山植物室」もオープン。エーデルワイスやアイワギリソウなどを楽しむことができる
京都府立堂本印象美術館【京都府京都市】2013.04
耐震改修工事を終えて、リニューアルオープン。2012年12月から耐震補強や空調、電気設備の修理を行い、壁紙も一新した
EXPO'70パビリオン【大阪府吹田市】2014.03
館内の円形劇場「スペース・シアター」がリニューアル。1000個のスピーカーを配置し、レーザー光線などで演出する「世界初の立体音楽堂」として、現代音楽、文案、能、雅楽などを披露。今回の改修では、最新のLED（発光ダイオード）ライトを導入するなどして、44年ぶりにその演出をよりダイナミックに再現
大阪科学技術館【大阪府大阪市】2013.07
30回目の全面改修を終えて再オープン。小学校高学年から中学生の「次世代層」へアピールするため、最新の科学的成果を踏まえた展示内容にリニューアル。実物、模型、映像で科学技術を体感できるように工夫している
キッズプラザ大阪【大阪府大阪市】2014.03
次世代の「遊び」と「学び」が体感できるスペースが3階にオープン。コンピュータの中心に広がる重力のない3D空間で、新感覚のつみきあそび体験ができる展示や、体験者の一瞬の動きをコンピュータで読み込み、それをシルエットとして一瞬にして巨大スクリーンに映し出す展示など、全ての展示にデジタル・テクノロジーを取り入れ、新感覚の不思議空間を楽しむことができる
国立民族学博物館【大阪府吹田市】2014.03
東アジアに関する常設展示室を一新。目玉は、同館初の本格的な沖縄文化の展示と、在日外国人文化の展示。沖縄文化の展示は、展示点数約300点。実物の10分の1の古民家模型やサバニ（漁業や交通用の小舟）の実物も並べた。沖縄流アロハシツのかりゆしウエア、米軍統治下で普及したジューボックスなど、近年の文化も紹介。在日外国人のコーナーは、戦前の植民地からの流入から近年の外国人労働者の移住までを約200点の資料で紹介。故郷の宗教文化を守る取り組みや外国人入学校の展示が目新しく、外国人学校の教科書は、来館者が手に取ることもできる。中国関連の展示は全面更新を実施。中国革命の父、毛沢東をあしらった民芸品などが展示された。朝鮮半島の展示も、宗教や食などさまざまな切り口で展示している
堺市博物館【大阪府堺市】2014.03
「百舌鳥古墳群ガイダンスコーナー」をオープン。このコーナーに設けたシアターでは、約20インチの大スクリーンで映像で、百舌鳥古墳群の雄大さを体感することができる。このオープンに合わせて、同館では展示室の古代展示を一新するとともに、ロビーを改装してミュージアムグッズや図録などを販売するコーナーを設置
相生市立歴史民俗資料館【兵庫県相生市】2013.10
1階常設展示をリニューアルし「播磨造船と歩んだ相生」に変更。資料館1階は、播磨造船所とともに歩んだ20世紀の相生を展示。明治時代、唐津清太郎村長は小さな造船所に地域の未来を託しました。大正時代、鈴木商店が造船所を拡張、旧矢野莊は造船都市相生として再統合された
明石市立天文科学館【兵庫県明石市】2014.03
プラネタリウムで座席取り換え工事が完了し、リニューアルオープン。座席数は50席減の300席となったが、前後の間隔を15cm広げて、家族で利用できるファミリーシートも設置。ゆったりと映像を楽しむことができる。同館のプラネタリウムは1960年から稼働。座席のリニューアルは阪神淡路大震災の被害を修復した1998年3月以来16年ぶりとなる。39席が取り外し可能となり、イベントに合わせた会場レイアウトを行うことができる。家族連れに配慮し、ファミリーシートを13席分（2人用5基、3人用1基）新設した
甲子園歴史館【兵庫県西宮市】2014.02
新たに「ドラフト体感コーナー」を設置。このコーナーは、タッチパネルに「球団」「氏名」「ポジション」「出身」を入力すると、モニターに実際のドラフト会議時に指名選手が表示される画面と同じ画面が映し出され、意中の球団からドラフトに指名された気分を体感できる

ひめじ防災プラザ【兵庫県姫路市】2014.02
地域の防災力向上をめざして迫力のある体験ゾーンなどを充実させた。改修の目玉の一つが消火体験コーナー。今回新たにミニ消防車や消防服が用意された。子どもたちは、「火災発生」の通報が入ると、本番さながらに「出動」。従来の2倍の240インチの画面に映し出される火災映像に実際に放水して消火する体験ができる。展示内容も津波からの避難情報の充実や、気象の「特別警報」の説明を加えた
UCC コーヒー博物館【兵庫県神戸市】2013.10
コーヒーの歴史や製造方法を展示する同館が四半世紀ぶりに全面改装。自分で生豆を煎ってオリジナルコーヒー豆が作れる焙煎体験や、世界のコーヒーを飲み比べるテイスティング体験など、体感型博物館にリニューアル。それまでイベントで好評だった焙煎体験を常設した。同社の豆を使う喫茶店などに、コーヒーのおいしい入れ方や経営ノウハウを伝授するトレーニングセンター「上島道場」も新設
明日香村埋蔵文化財展示室【奈良県明日香村】2014.01
展示内容を一新して、リニューアルオープン。古墳や宮殿など飛鳥の多様な遺跡の出土品を中心に、東アジアの中での「日本国」誕生の道のりを分かりやすく理解してもらう展示を設置
飛鳥歴史公園館【奈良県明日香村】2014.03
1985年の開館以来、初の展示リニューアルを実施。約30年を経て写真や映像などが古くなったため、改装に踏み切った。入口には飛鳥全体を観光する手助けにと、名所旧跡などを記した詳細な地図を掲示。パラグライダーからのダイナミックな飛鳥の映像なども放映している。奥の展示室では、メーンの飛鳥の巨大なジオラマを、新たな道路や建物などを加えて現在の姿に改装。高さを5cm低くし、周囲の柵を取り除いて、子供や車椅子利用者が見やすいようにした。ジオラマは可動式にして、このスペースをミニ講演会や音楽会など多用途に使えるように整備した
アドベンチャーワールド【和歌山県白浜町】2013.04
ジャイアントパンダなどの希少動物の繁殖や生育を研究する施設「PANDA LOVE」がオープン。新施設は鉄筋平屋で、ガラスで仕切った屋内運動場2面（計160㎡）と、希少動物の繁殖研究などに使う動物舎、屋外運動場（455㎡）がある。従来の展示施設よりも入場口に近いフラワー通り沿いに建設された
和歌山市立こども科学館【和歌山県和歌山市】2014.03
耐震補強工事、防災設備の更新が完了して、リニューアルオープン。強い地震に耐えられるよう、新たに鉄筋や壁を導入。非常口を知らせる案内板などを設置した。停電時も充電した電力で点灯する照明や、どこで火事が起きているかが分かる受信盤も整備。また、電気と磁石の関係が学べる小学生向けのブースを新設した。今回のリニューアルでは、プラネタリウムのプログラムも更新した
日野町歴史民俗資料館【鳥取県日野町】2013.10
「たたら」の里「日野町が同町根雨に建築を進めていた町歴史民俗資料館分館が完成。明治期まで操業していた地元の都合山鉄山の調査資料を基に再現され、2013年春に修復された国内最古の高殿模型を展示。分館は、日野郡一帯で栄えていた製鉄業の歴史を伝える展示施設「たたら」の栗枝根雨楽舎」の裏庭に建設。漆喰の白壁や土に石炭・苦汁などを混ぜて固めた三和土工法を採用した
米子市美術館【鳥取県米子市】2013.08
建物の改修を実施（隣接する米子市立図書館とともに増改築工事を実施）。美術館・図書館とともに鉄筋2階建てだが、老朽化が進んでいたため、増改築工事を行った。授乳室や収蔵庫を新設し、建物内部はバリアフリー化を図った。以前から要望が多かった喫茶室も1階に新設した。その他、事務室の拡張、展示用パーテーションの改善、空調、トイレ・電気設備等のリニューアル、展示スペースや会議室等の図書館との共用化などを行った。加えて、旧米子二中校舎を解体撤去し、跡地を創作・交流広場として整備
鳥根県立しまね海洋館（アクアス）【鳥根県浜田市】2014.02
ペンギン館の屋内プールを改装。陸地部分を広げ、イフトビペンギン繁殖用の高台を設置。北側の壁を幅5m、奥行き60cm削り、陸地部分を拡大。壁際の岩場（高さ3m）も半分に下げて高台を設けた。新たに設置した製氷機で1日1トンの水を凍らせて人工雪をつくり、より自然に近い環境で暮らすペンギンを見られるようにした
池田動物園【岡山県岡山市】2013.10
コツメカワウソの専用プールが、観覧通路の上に新設。約2mの高さにある透明の亚克力製で、見上げると普段とは違う表情やしぐさを観察することができる。カワウソ類の中で最も小さいコツメカワウソは、東南アジアなどの水辺に広く生息。プール（長さ2m、幅1m、深さ50cm）は飼育舎のすぐそばにあり、はしごでつながっている。長い尾や足を器用に動かして水中をくると回転し、飼育員が与えた好物のドジョウを捕まえて食べる姿も見せている
倉敷見虫館【岡山県倉敷市】2013.12
入居する「しげい病院」の建て替えに伴い、8階から1階に移転。1階の旧検体検査室を改修し、移転した。「さまざまな昆虫たち」「世界の蝶たち」「岡山県のレッドリスト昆虫」「図書コーナー」「研究室（事務室）」で構成
筆の里工房【広島県熊野町】2013.09
館内に、伝統工芸品「熊野筆」の魅力をPRする「熊野筆セレクトショップ本店」をオープン。熊野町内の筆製造業者（書・画・化粧）32社が出品。化粧筆、書道の筆、絵筆など約1500種類を陳列。店内で実際に使ってみることができるほか、専門知識を持ったアドバイザーも配置されている
中原中也記念館【山口県山口市】2014.02
開館20周年を機に、老朽化した施設・設備の改修を実施。3カ月半にわたる改修工事を終えてオープン。館内を流れる新たなBGMを制作するとともに、中原中也の生涯を紹介する放映映像「中也の軌跡」もリニューアルした
香川の手袋資料館（グローブ・ミュージアム）【香川県東かがわ市】2013.05
約5年ぶりとなる展示のリニューアルを実施。手袋製造初期に用いられたミシンなどの道具を工程順に紹介するコーナーを新設するなど、地場産業の歴史をより分かりやすく展示した。新設コーナーには、明治時代中期から大正時代までの製造で使われた約20点の道具を展示。中でもミシンは、環縫い、本縫い、マツイ縫いと縫い方に応じた5台を並べている。動力が手回しからモーター、針も1本から2本へと時代とともに変化した様子がひと目で分かる。資料館の入口にも展示スペースをつくり、産地概要や歴史資料、シーズン商品などを定期的に展示替えして運用する
瀬戸大橋記念館【香川県坂出市】2013.07・2013.10
2013年7月、ブリッジシアターの機器や映像ソフトをデジタル化するとともに、「宇宙」をイメージした映像を公開。2013年10月、開館25周年を記念して取り組んだ展示作品などの更新作業が完了。ブリッジシアターにコンピュータグラフィックスを使った映像2作品を追加したほか、宇宙に関する展示作品や段ボール製のUFO形遊具などを新たに追加した

アートスペース谷尾 (直方市美術館別館) [福岡県直方市] 2013.05
館内にギャラリーレストラン「Buono ばーの」がオープン。それまで約10年間営業した民間の喫茶店が閉店したため、入れ替わりでレストランを開店した。店内は約40席で、午前11時半～午後9時営業
北九州市立美術館 [福岡県北九州市] 2013.04
JR黒崎駅前の複合施設「コムシティ」3階に「北九州市立美術館黒崎市民ギャラリー」をオープン。市民が制作した絵画や書、陶芸、彫刻、染織、写真などを発表する貸ギャラリーとして機能
九州鉄道記念館 [福岡県北九州市] 2013.07・2013.08
2013年7月、新たに、ブルートレインを引いた電気機関車、電化方式の違う本州と九州を行き来した関門トンネル用の機関車、九州を走った特急の各先頭部を展示し、運転席(運転台)の見学コーナーを新設。2013年8月、ブルートレインの寝台車を設置。2段式ベッドが並ぶ客室に入ることできる。開館10周年の節目に、屋外の車両展示を充実させた
福岡市動物園 [福岡県福岡市] 2013.09
展示施設「アジア熱帯の溪谷エリア」が完成。動物たちが餌を食べる様子や体の細部が間近で見られるよう、建物に工夫を凝らした。マレーグマ、ヒョウ、サイチョウの飼育舎と溪谷エリアの施設全体を一望できる休憩所を整備し、エリア全体が完成。9種類24頭の哺乳類のほか、鳥や爬虫類が飼育・展示されている。建設にあたっては、飼育員の意見を聴き、動物の生態が来園者に直に伝わるようなアイデアを随所に取り入れた。ヒョウは木の上で生活することが多いため、飼育舎の中に擬木を置いた。この擬木がある高い位置に外部との仕切りになる金網やガラスを張り、ヒョウが横たわる姿や大きな肉球が外からも観察できるようにした。動きが活発なマレーグマは、その周囲をほぼ360度に向って取り囲むようにして見学することができる。見学者が立つ場所の近くには餌場を設置した
福岡市博物館 [福岡県福岡市] 2013.11
国宝「金印」などを展示する常設展示室を一新。新展示室は、市の象徴的な文化財である「金印」と国指定重要無形民俗文化財の「博多祇園山笠」を前面に出すレイアウトを採用。「奴国の時代」「鴻臚館の時代」など、同館独自の時代区分で福岡市史を分かりやすく解説。展示には最新の情報機器を駆使した。1990年の開館以来初の全面改装。改装された常設展示室内の「現代の福岡」を紹介するコーナーには、同市を本拠地としたプロ野球球団・西鉄ライオンズゆかりの品々が新たに並べられた。展示室は11区画で構成されている
西海国立公園九十九島動植物園 森きさら [長崎県佐世保市] 2014.01
新ペンギン館が完成。大型の水槽(容量231トン)を取り囲むように、展示室やデッキを配置し、さまざまな角度からペンギンを観察できるのが特徴。3階建てで、延床面積は約830㎡。水槽は2階部分(深層部は1階)に設けた(水面の広さは約160㎡、最深部は4m)。1階展示室の天井(約80㎡)は水槽の底部になっており、泳ぐ姿を真下から見ることができ、水中を観察できる天井としては国内最大で、水槽の上に屋根がないため、晴れた日はペンギンが空を飛んでいるように見える。水槽の最も浅い部分(5cm)の下には、ペンギンの足裏や歩く姿を観察できるスペースを確保。水槽の上に張り出した餌やりデッキも設置
長崎科学館 [長崎県長崎市] 2014.03
更新工事を行っていたドーム形(直径約23m)のプラネタリウム施設が完成。1億4千万個の星を再現することができる。同館のプラネタリウム施設は開館以来、約16年間稼働し老朽化していた。更新工事は、株式会社五藤光学研究所が手掛け、最も高性能な機器としてギネス世界記録に登録されている光学投影機を導入した
阿蘇火山博物館 [熊本県阿蘇市] 2014.03
3階マルチホールの上映システムをリニューアル。様々な映像の上映や、イベント会場としての利用など、マルチホールの利便性が向上。1982年の開館以来初のリニューアルを実施
天草市立天草コレジヨ館 [熊本県天草市] 2013.11
2階に「世界平和大使人形の館」をオープン。初の女性衆議院議員の一人である園田光光氏宛に世界各国から届いた人形の常設展示を展開
北里柴三郎記念館 [熊本県小国町] 2013.07
北里研究所創立100周年を機に、北里文庫を利用した展示室内の改修と展示資料の刷新を行った。受付やトイレなど周辺施設の改修や、庭園の整備も実施
九州学院100周年記念歴史資料・情報センター [熊本県熊本市] 2013.11
学校法人九州学院の歩みを資料や写真などで振り返る「歴史資料・情報センター」がリニューアルオープン。同センターは2011年に、創立100周年を記念して、旧中学校職員室(約70㎡)に開館。今回の改装では、浅川牧夫センター長や学芸員でOBの花岡興史氏等が約1年かけて、学院の歴史を一望できるパネルなどを整備。展示を時系列に見学できるよう、配置も見直した。1974年まで63年間あった旧校舎を再現した紙製の模型や、旧制五高教授だった遠山参良初代院長が同僚の夏目漱石らと一緒に写った写真なども展示
熊本市動植物園 [熊本県熊本市] 2013.10
ニホンザルの新しい展示エリアを公開。生き生きと動き回るサルを見てもらおうと、木々が生い茂る風景を再現。同園によると、緑の中で飼育・公開するのは全国の動物園で初の試み。広さは240.5㎡。それまで設けられていた「サル山」を取り壊して整備した。飼育中のサル(12匹)の祖先を捕獲した相良村の生息地を調査した上で再現した。緑を茂らせた「奥山」と段々畑などを設けた「里山」の2ゾーンで構成。一角には、サルと人間の関わりへの深さを理解してもらおうと、同村内の神社にある守り神「豹猿」も設置
国立療養所菊池恵楓園 社会交流会館(歴史資料館) [熊本県合志市] 2013.04
園内の歴史資料館を改装し、リニューアルオープン。入所者が1人当たり2畳の空間で集団生活していた当時の大部屋の一部を再現するなど、人権侵害の歴史が理解しやすいよう展示を一新した。延床面積約260㎡の展示室に、従来の2倍以上に当たる500点超の資料を展示。かつて職員が着用した白衣、帽子、マスク姿を再現したマネキンや、堕胎や断種を強制された施設で入所者が子ども代わりにしていた人形などが新たに並んだ

夏目漱石内坪井旧居 [熊本県熊本市] 2013.04
展示内容を充実させてリニューアルオープン。従来は、明治時代に建てられた木造平屋の家屋そのものを見学してもらうことに主眼を置いていたが、全集などを閲覧できる「サロン」を設けるなど、資料展示に力を入れた
サッポロビール九州日田工場「ウェルカム館」 [大分県日田市] 2014.03
見学施設「ウェルカム館」がリニューアルオープン。最新映像技術の「プロジェクションマッピング」を使って、同社の代表銘柄「エビス」と「黒ラベル」をツアー形式で案内する新コーナーを設けた。オープンから15日目を迎えることを記念してリニューアルを行った。エビスと黒ラベルの2コースに分かれ、エビスは明治期のビアホール、黒ラベルはビール缶の大型模型物に映像を映し出し、両銘柄の歴史とおいしい飲み方を紹介している
えびのエコミュージアムセンター [宮崎県えびの市] 2013.07
開館から10年以上が経過し、霧島連山を中心とする霧島ジオパークの取り組みなどを紹介するため、施設を全面リニューアル。霧島連山の成り立ちをより分かりやすく伝えるために展示物を一新。火山の形成や地質、自然の多様性などを学べる立体模型や映像、写真展示を拡充させた。霧島山を中心に、周辺市町を含む直径4mの円形航空写真を床に設置。10万年以上前からの霧島連山の火山活動や地形変化の映像を円形の立体模型(直径2m)に投影する装置を導入。新燃岳噴火、霧島ジオパークのジオサイト、最新の火山情報、見頃の草花を紹介するコーナーも設置
都井岬ビジターセンター・うまの館 [宮崎県串間市] 2013.04
同館入口周辺に国指定天然記念物の野生馬・岬馬の餌場となる草地を造成。岬馬の生態などを紹介している同館は、岬馬が草を食べに集まるスポットにもなっている。2012年、馬伝染性貧血により岬馬12頭が殺処分されたのを受けて、頭数回復を目的に4カ月間休館して6,000㎡の草地造成事業に取り組んだ。幸島の野生猿や都井岬沖のサングを紹介するコーナーも新設
宮崎県立美術館 [宮崎県宮崎市] 2013.11
映像、パフォーマンスといった現代の新しい表現を紹介する「アートシアター」を同館1階に開設。企画展示の講演会などで用いていたハイビジョンギャラリーを改修。DVDをはじめ、一般に広く普及している映像規格に対応したプロジェクターを設置した。縦2.5m、横5mの大スクリーンで作品を映写できる。客席数は42席。簡易ステージが設けられており、パフォーマンスや詩の朗読など小規模の公演にも対応できる
鹿児島市平川動物公園 [鹿児島県鹿児島市] 2013.07・2014.03
2013年7月、「不思議な動物ゾーン」がリニューアルオープン。大きな翼を広げるトキイロコンドル、木の上でくつろぐショウガラゴやキンカジュウなど、動物たちの迫力ある姿を楽しむことができる。そのほか、今回新たにオープンしたのは、猛禽類舎、ヤマアラシ舎、は虫類・夜行性動物館の3施設。今回のリニューアルによって、以前より間近で動物たちを観察できるようになった。アフリカシカヘビの展示場では曲面ガラスを採用。普段なかなか見られないヘビのお腹が観察できる。2014年3月、オランウータン舎近くの白鳥池の前に多目的スポットが完成。建物内には男女おぼろ障がい者用のトイレ(オストメイトあり)や授乳室が整備されている。休憩スペースも設けられていて、雨の日でもゆっくりくつろげる場所を整備した
原野農芸博物館 [鹿児島県奄美市] 2013.12
2010年10月の豪雨で大きな被害を受けた同館(奄美アイランド内)が3年ぶりにリニューアルオープン。土砂が流れ込んだ展示室を改築し、水没した収蔵品は島内外の学芸員や学生等の協力で洗浄・修復した。豪雨による土石流で同館は展示施設や収蔵庫、温室植物園など建物5棟が倒壊。東南アジアの民具など資料約2万点が土砂に埋まる等の被害を受け、休館が続いていた。本館の改築工事が2013年5月に完了。日本財団の助成を受けて建て直した収蔵庫も2013年10月に完成した
国営沖縄記念公園 海洋文化館 [沖縄県本部町] 2013.10
老朽化のため、2011年11月から取り組んだリニューアル工事が完了して、リニューアルオープン。沖縄やミクロネシアなどのサバニヤカヌー、人々の生活や航海の様子などを伝える資料、約750点を展示。海と生きる先人たちの歴史や文化を紹介。老朽化が進んでいたため、約2年間閉館して改装を行っていた。新設の「沖縄ゾーン」には、糸満市のNPO団体が作製し、約70kmの海上を漕いで納品された「本ハギ」サバニヤ、かつて西表島で使われ、約60年ぶりに復元された「マチキフニ」(松木船)なども展示されている
首里城公園 [沖縄県那覇市] 2014.01
復元工事が完了した「黄金御殿(くがにうどうん)」など、4つの建物を新たに開館。琉球王朝時代に王や王妃の居室があった「黄金御殿」のほか、国王家族の食事を作った「寄満(ゆいんち)」、国王への取り次ぎを行う近習が控える「近習詰所」、執務の間に国王が休憩した「奥書院」が復元された
漫湖水鳥・湿地センター [沖縄県豊見城市] 2014.03
展示室等のリニューアルが完了。新しくなった展示室は、楽しみながら漫湖の自然や歴史について知り・学ぶことができる。漫湖の環境を再現した体感型のジオラマやイラスト・写真等多用した解説パネルを整備。2階の観察展望室では、最大75倍の望遠鏡を自由に操作して、漫湖の周辺に集まる水鳥を観察することができる。キッズコーナーでは、絵本を読んだり、漫湖で採集されたメヒルギ(マングローブの一種)の積み木で遊ぶことができる
宮古島市総合博物館 [沖縄県宮古島市] 2013.04
館内設備の改修が完了。宮古の歴史、自然、文化に関する展示物も拡充した。伝統芸能などの動画が入った「ものしり博物館」をはじめ、台風や地球温暖化の情報コーナー、御嶽や地下大洞、宮古上布といった宮古島特有の財産をデジタル化した映像コンテンツを整備

開設博物館、リニューアル博物館に関するデータの集計・分析では、各館の開設、リニューアル当時のデータに基づいて集計を行いました。2013 年度の開設博物館情報、リニューアル博物館情報について、調査もれ、記載間違いなどがある場合は、ご教示いただければ幸いです。(石川・福留)

Museum Data

ミュージアム・データ

Museum Data No.80 (2018.2)

ミュージアム・データ No.80 2018年2月2日発行

発行：(株)丹青研究所 〒108-0075 東京都港区港南 1-6-41

http://www.museum.or.jp/tanseiken/

企画・編集：文化空間情報部 ☎03-6455-8287

©Tansei INSTITUTE